

交流及び共同学習 ガイドブック



平成 26 年 3 月
岩手県立総合教育センター
長期研修生
所属校 岩手県立花巻清風支援学校
安 達 史 枝

はじめに



「共に学び，共に育つ教育」

障がいのある児童生徒も障がいのない児童生徒も同じ地域に生きる仲間です。学校や教室が離れていたとしても，児童生徒同士が共通の目的に向かって学ぶ環境を用意することで，共に学ぶ空間を作りあげることができます。また，たとえ普段は一緒に学習していなくても，事前に準備を整え，交流及び共同学習を繰り返し行い積み重ねることで，共に学び，共に育つ姿が見られることでしょう。

交流及び共同学習を行うことで特別支援学校の児童生徒は，より多くの豊かな経験ができ，地域に帰ったときも生き生きと生活することが期待できます。小・中学校の児童生徒は，相手を思いやる気持ちや自分から考えて行動する力がつき，自分を見つめ直す機会にもなるでしょう。そして，障がいのある児童生徒にとっても障がいのない児童生徒にとっても社会性や豊かな人間性を育む教育につながります。

ぼくはきっとできると思う。

なぜならぼくらが

それをいま

かんがえているのだから。

宮沢賢治『ポラーノの広場』より

このガイドブックの活用で，交流及び共同学習が充実し，岩手の教育がより素晴らしいものになることを期待しています。



目次

第1章 「交流籍」を活用した交流及び共同学習 [理解編]

- | | |
|------------------------|---|
| 1 「交流籍」についてもっとよく知りましょう | 1 |
| 2 手続きはどうなっているの？ | 3 |
| 3 地域に根ざした取組を目指しています | 9 |

第2章 「交流籍」を活用した交流及び共同学習 [展開のポイント]

- | | |
|---------------------------------|----|
| 1 学校体制はこれでOK！ | |
| 〈ポイント 1〉 校長の理解とリーダーシップが重要 | 12 |
| 〈ポイント 2〉 教育課程に必ず位置付けましょう | 13 |
| 〈ポイント 3〉 校内の推進組織を明確にしチームで進めましょう | 14 |
| 2 さあ！交流及び共同学習をしましょう | |
| 〈ポイント 4〉 必見！打合せが重要なカギ | 16 |
| 〈ポイント 5〉 児童生徒が意欲的になる事前学習 | 26 |
| 〈ポイント 6〉 児童生徒の良さがキラリ！と光る活動に | 30 |
| 〈ポイント 7〉 事後学習でさらにステップアップ | 31 |
| 〈ポイント 8〉 評価で取組が充実 | 32 |
| 3 次年度に向けてさっそく準備しましょう | |
| 〈ポイント 9〉 次年度の希望を両校で確認しましょう | 38 |
| 〈ポイント 10〉 担任の先生が替わる時は引き継ぎを忘れずに | 39 |

第3章 「交流籍」を活用した交流及び共同学習 [実践編]

- | | |
|------------------------|----|
| 1 小学校と特別支援学校との交流及び共同学習 | 41 |
| 2 中学校と特別支援学校との交流及び共同学習 | 45 |

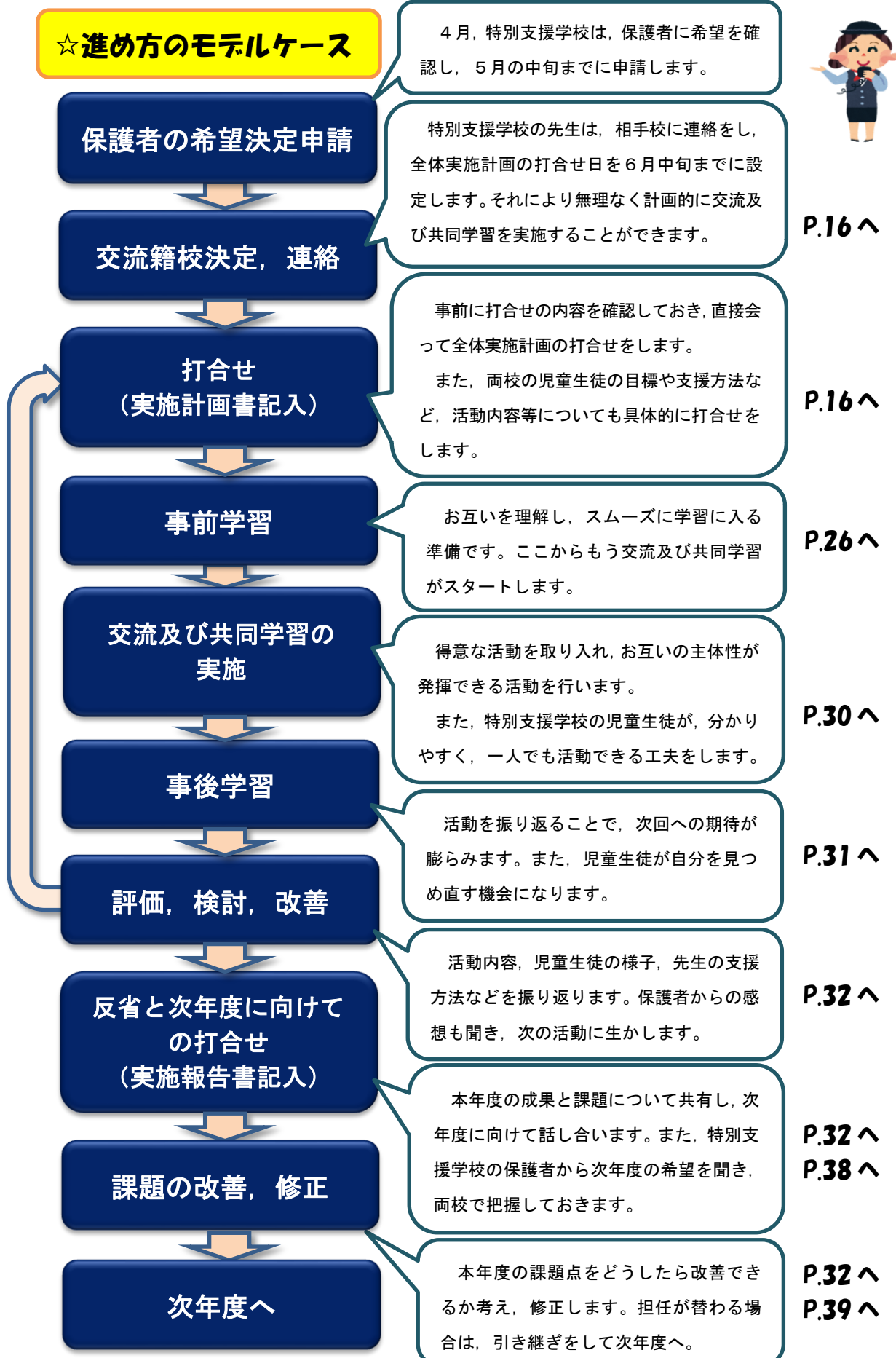
「交流籍」を活用した交流及び共同学習 [資料&関連事項]

- | | |
|---------------------------------------|----|
| ・ 保護者用案内リーフレット&保護者希望申請用紙様式 | 50 |
| ・ 「授業用打合せシート」&「活動振り返りメモ」&「授業用評価シート」様式 | 52 |
| ・ 引用・参考文献等 | 55 |

「交流籍」を活用した交流及び共同学習の進め方ガイド

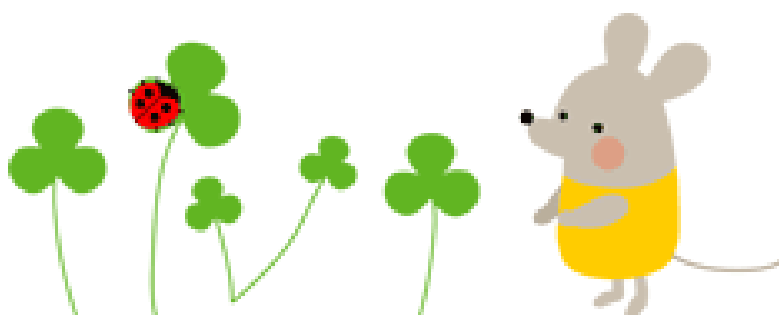
交流及び共同学習を実施するために1年間の見通しをもち、計画的に進めましょう。
また、計画、実践、評価、改善のサイクルで活動内容や支援方法を改善していくことが大切です。

☆進め方のモデルケース



第1章 「交流籍」を活用した交流及び共同学習

[理解編]



1 「交流籍」についてもっとよく知りましょう



学習指導要領では、交流及び共同学習は、社会性や豊かな人間性をはぐくむなど、相互の児童生徒にとって、とても意義のある教育活動であることから、交流及び共同学習の機会を設け、計画的・組織的に行う必要性が述べられています。(P.11)

岩手県では、「共に学び、共に育つ教育」の実現を目指し、「いわて特別支援教育推進プラン」を策定しました。その「いわて特別支援教育推進プラン」に基づいて、平成24年度から「交流籍」を活用した交流及び共同学習が本格的に実施されています。「交流籍」を活用した交流及び共同学習を行うことになった背景をしっかりと捉え、取組を充実させましょう。

「交流籍」って何？

特別支援学校の小・中学部に在籍する児童生徒は、居住地域の小・中学校に保護者の希望で副次的な籍を置くことができます。この副次的な籍を岩手県では「交流籍」と名付けました。正規の学籍は、特別支援学校にあります。

どうして「交流籍」を置くの？

「交流籍」を置くことで先生方、児童生徒、保護者、居住地域の人たちに「同じ地域に住む仲間」という意識を強くもってもらうことがねらいです。居住地域での活動の場を広げ、大人になっても安心して自信をもって生活できる環境を作っていくことを目指しています。



「交流籍」を活用することの利点

〈特別支援学校の児童生徒にとっては〉

- 居住地域とのつながりができ、社会性や人間性が育ちます。
- 生活経験が広がり、たくさんの友達とのかかわりの中で、もっている力を伸ばすことができます。

〈小・中学校の児童生徒にとっては〉

- 障がいについて正しい理解が深まり、思いやりの気持ちが育ちます。
- 自分を見つめ直し、自分を振り返る機会になります。
- お互いを認め合い、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学びます。

〈先生方、保護者、居住地域の人たちにとっては〉

- 一人一人の児童生徒に応じた教育の在り方や障がいについての正しい理解と認識を深め、居住地域に広めることができます。
- 誰もが生活しやすい地域づくりのきっかけになります。

学年の早い段階から開始し継続しましょう

相手をよく理解するためには、実際にかかわり合いをもつことが重要です。学年の早い段階から「交流籍」を活用した交流及び共同学習を継続して取り組むことで、特別支援学校の児童生徒と小・中学校の児童生徒が、より深くお互いを知ることができ、理解し合えます。

特別支援学校、小・中学校の先生方はこれまで以上に目的意識をもって、充実した交流及び共同学習の推進に努めましょう。

居住地校交流と何が違うの？

教育事務所や市町村教育委員会がパイプ役です

これまでの居住地校交流は、学校間でのやりとりで行っていましたが、「交流籍」を活用した交流及び共同学習では、手続きの際に教育事務所や市町村教育委員会がかかわり、実施状況を把握したり、居住地域での学びの場を保証、支援したりし、取組を推進していきます。(P.3)

特別支援学校に入学した児童生徒が居住地域とのつながりを保つため、教育事務所や市町村教育委員会が、継続した支援ができるという点がこれまでの居住地校交流との大きな違いです。教育事務所や市町村教育委員会は、保護者や居住地域への取組の理解啓発のパイプ役としても大きな期待がかかっています。(P.9)



「交流」から「交流及び共同学習」への変化にも注目しましょう

教科・領域等のねらいも達成しなければいけません

「交流及び共同学習」とは、ただ単に交流するのではなく、お互いの理解を深め、支え合っていくことの大切さを学び合いながら、さらに学習のねらいも達成できるようにするというものです。ですから交流及び共同学習を考える際は、児童生徒が、教科・領域等の目標も達成できるような内容の工夫や支援方法などを具体的に考えることが必要です。

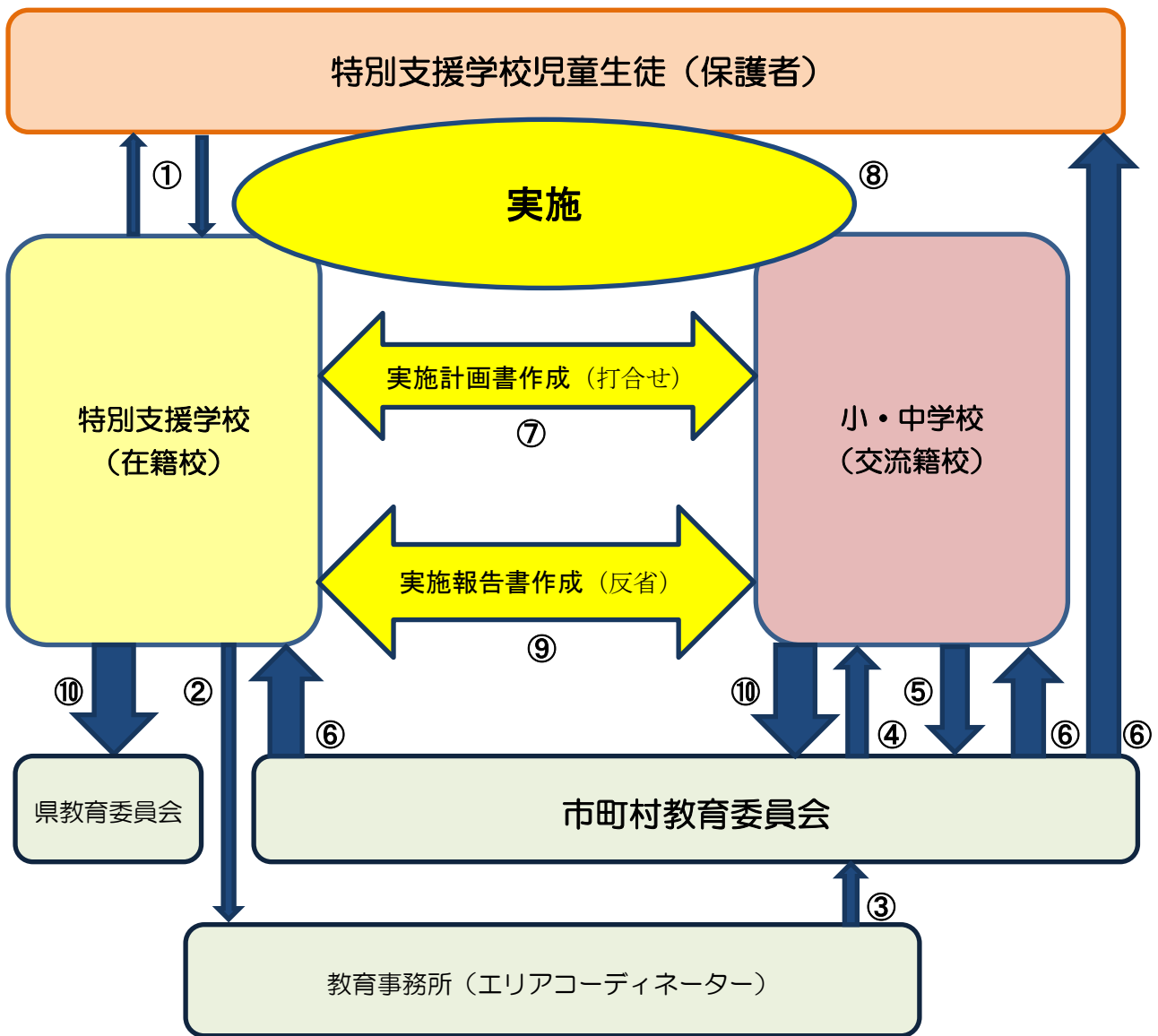
2

手続きはどうなっているの？



「交流籍」を活用した交流及び共同学習は、地域とのつながりを保つため、教育事務所や市町村教育委員会がかかわり、推進して行くことになりました。手続きの流れを確認してみましょう。

「交流籍」を活用した交流及び共同学習の手続きの流れ



* 各番号の説明は右のページ（P. 4）をご覧ください





手続きの流れの説明

- ① 特別支援学校は、保護者に「保護者用案内リーフレット」と「交流籍校指定申込書」を配布し、希望を取ります。(P.5【資料1】、P.6【資料2】)
- ② 特別支援学校は、保護者からの申し込みがあった児童生徒について、教育事務所（特別支援教育エリアコーディネーター）に申請します。(P.7 様式1)
- ③ 教育事務所（特別支援教育エリアコーディネーター）は、市町村教育委員会へ実施の依頼をします。(P.7 様式2)
- ④ 市町村教育委員会は、各小・中学校へ実施の確認をします。
- ⑤ 小・中学校は市町村教育委員会へ実施の回答をします。
- ⑥ 市町村教育委員会は、交流籍校指定を小・中学校、特別支援学校、保護者へ通知します。(P.8 様式3, 4, 5)
- ⑦ 小・中学校と特別支援学校で打合せをし、「交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書」を作成します。(P.19 様式6)
- ⑧ 交流及び共同学習を実施します。
- ⑨ 小・中学校と特別支援学校で反省をし、「交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書」を作成します。合わせて次年度の確認をします。(P.36 様式7)
- ⑩ 「交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書」を小・中学校は市町村教育委員会へ、特別支援学校は県教育委員会に提出します。



「保護者用案内リーフレット」例

教育事務所や市町村教育委員会は、地域とのパイプ役として重要な役割があります。特別支援学校に入学しても居住地の児童生徒に継続した支援を行っていくことが大切です。「保護者用案内リーフレット」があると、取組の内容が保護者に伝わりやすくなり、安心して申込みができるようになります。また、就学先を協議したり、決定したりする際に配布する等の活用もできます。
【資料1】

〇〇〇教育委員会

「交流籍」を活用した 交流及び共同学習のご案内

岩手県では、特別支援学校の小・中学部で学んでいる子どもたちが、居住地の小・中学校の友達と一緒に学習したり、行事などに参加したりできる「交流籍」を活用した交流及び共同学習の取組を行っています。

お互いを理解し、尊重しながら育つことで、将来にわたって地域や仲間との温かくなつながらをもち続け、支え合い認め合って暮らすことができるようにという願いが込められています。



〇 「交流籍」とは？

特別支援学校の小・中学部に在籍する児童生徒は、交流及び共同学習を通じて地域とのかかわりを充実させるため、居住地の小・中学校に副次的な籍を置くことができます。この副次的な籍を「交流籍」と言います。（正規の学籍は特別支援学校にあります。）

〇 「交流籍」を活用した交流及び共同学習の内容

「交流籍」を活用した交流及び共同学習を希望されますと、地域の小学校または中学校を交流籍校として指定し、授業や行事等に参加できます。保護者の方の希望をお聞きし、小・中学校と特別支援学校の先生方が連絡を取り合い、調整しながら活動内容を決定していきます。例えば、さつまいもを収穫し、みんなで協力してスイーツを作って会食するなど、どの児童生徒でも楽しく参加できる内容を考えていきます。この取組は、子どもたち同士のふれあいを通して、よりよい人間関係を育み、いろいろな経験を重ねることで社会性を養うことができます。また、地域での子どもたちの活動の場を広げて行くことを目的としています。

〇 対象となるお子様

岩手県内に居住する県立特別支援学校（小学部、中学部）で学ぶお子様

〇 「交流籍」の申し込み方法・申し込み期限

「交流籍」を活用した交流及び共同学習を希望する場合は、別紙の「交流籍校指定申込書」を在籍する特別支援学校に〇月下旬までに提出してください。

〇 その他

詳しい内容やご不明な点、ご心配等がありましたら、在籍する特別支援学校の先生におたずねください。

「交流籍校指定申込書」様式例

「交流籍校指定申込書」があると保護者は、申込先が明確になり、希望申請がスムーズになります。また、特別支援学校では、集約がしやすくなり、市町村教育委員会では、希望する児童生徒をしっかりと把握しておくことができます。

【資料2】

〈様式〇〉

交流籍校指定申込書

〇〇市教育委員会 へ

交流籍校の指定を希望しますので、本書をもって申し込みます。

在籍学校名	支援学校
ふりがな	
児童生徒氏名	
性別	
生年月日	
学年	小学部・中学部 学年
希望交流籍校	学校

*希望交流籍校の欄には、居住地域の小・中学校をご記入ください。

平成 年 月 日

保護者住所 _____

保護者氏名 _____

交流籍希望申請の様式集 1～5

様式1 特別支援学校から教育事務所への交流籍希望申請書

<様式1>

〇〇支第〇〇号
平成 年 月 日

〇〇教育事務所長 様
(学校教育室経由)

〇〇〇〇支援学校長

平成 年度交流籍希望申請書
交流籍の希望のあった児童生徒について申請します。

学 部 学 年	こ り が な み 氏 名	性 別	生 年 月 日	保 護 者 名	住 所	希 望 交 流 籍 校	備 考
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

※備考欄には「新規」または「継続」と記入すること。

様式2 教育事務所から市町村教育委員会へ交流籍確認依頼

<様式2>

〇〇第〇〇号
平成 年 月 日

〇〇市(町、村)教育委員会指導主務担当課長 様

〇〇教育事務所長

平成 年度交流籍希望について(依頼)
交流籍校の指定について県立特別支援学校から申請のあった児童生徒は以下のとおりです。
ついては、交流の可否について該当小中学校に確認願います。
また、確認の結果について、別紙様式3により該当小中学校へ、別紙様式4により該当特別支援学校へ、別紙様式5により保護者(可の者)へそれぞれ通知願います。

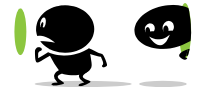
学 部 学 年	こ り が な み 氏 名	性 別	生 年 月 日	保 護 者 名	住 所	在 籍 校	希 望 交 流 籍 校	備 考
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								

※備考欄には「新規」または「継続」と記入すること。

担当 〇〇〇〇 〇〇 〇〇
TEL
FAX
E-mail



様式3 市町村教育委員会から小・中学校へ交流籍校の指定通知



<様式3>

〇〇〇第〇〇号
平成 年 月 日

〇〇〇立〇〇〇学校長 様

〇〇〇教育委員会教育長

平成 年度交流籍校の指定について（通知）
岩手県立特別支援学校に在籍する児童生徒について、貴校を交流籍校として指定します。
については、「交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書」の作成、「交流及び共同学習」の実施並びに
「交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書」の作成に協力願います。

学年	児童生徒氏名	性別	生年月日	保護者名	住所	在籍校	備考
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

※備考欄には「新規」または「継続」と記入すること。

様式4 市町村教育委員会から特別支援学校へ交流籍校指定通知

<様式4>

〇〇〇第〇〇号
平成 年 月 日

〇〇〇〇支援学校長 様

〇〇〇教育委員会教育長

平成 年度交流籍校の指定について（通知）
〇〇教育事務所長を通じて申請のあった交流籍校の指定について以下のとおりとします。
なお、交流籍校及び保護者に対してその旨通知したことを申し添えます。

学部 学年	児童生徒氏名	性別	生年月日	保護者名	住所	希望交流籍校	備考
1							
2							
3							
4							

様式5 市町村教育委員会から特別支援学校の保護者に交流籍校指定通知

<様式5>

〇〇〇第〇〇号
平成25年 月 日

〇〇〇〇（保護者） 様

〇〇〇教育委員会教育長

平成25年度交流籍校の指定について（通知）
お子様の交流及び共同学習の実施にあたり、下記の学校を交流籍校として指定します。

記

在籍校名	
学部・学年	
児童生徒氏名	
交流籍校名	

担当 〇〇〇〇 〇〇 〇〇
TEL
FAX
E-mail

担当 〇〇〇〇 〇〇 〇〇
TEL
FAX
E-mail

3

地域に根ざした取組を目指しています



これまでも交流及び共同学習は行われてはきましたが、地域に根ざす取組にはいたっていませんでした。「交流籍」を活用した交流及び共同学習は、「共に学び、共に育つ教育」を目指した一つの取組です。この取組を継続して実施していくことで、特別支援学校に通う児童生徒が居住地で生き生きと生活することが期待できます。教育事務所や市町村教育委員会が継続した支援を行うことで、特別支援学校の児童生徒や保護者は安心感をもつことができ、居住地の小・中学校との交流及び共同学習を通して地域の人とのつながりを実感することができるのです。この取組を充実させるために、教育事務所や市町村教育委員会、小・中学校、特別支援学校、保護者、そして地域が協力して実施して行くことがとても重要です。

「交流籍」についての理解を保護者や地域に広げることが大切です

保護者や地域に理解を広げるには以下のような取組例が考えられます。

〈教育事務所，市町村教育委員会として〉

- 就学相談等の際、特別支援学校入学予定の保護者に「交流籍」を活用した交流及び共同学習について説明することで、保護者は、地域の教育事務所や市町村教育委員会が積極的に児童生徒にかかわっていることを知り、この取組を行うことに安心感をもつことができます。
- 小・中学校、特別支援学校の保護者が安心できるよう、小・中学校の保護者には取組について理解を広げるリーフレットを、特別支援学校の保護者には「交流籍」を活用した交流及び共同学習の案内リーフレットを配布します。(P.5【資料1】)
- 取組についての説明や様子など多くの人に見てもらえるよう、事務所内や教育機関等でパネル展示などをし、理解を広げます。

〈学校として〉

- 先生方がパイプ役となり、PTA行事や地域行事等においても、特別支援学校の児童生徒が参加できるように工夫をします。
- 地域の方が集まる行事や会議の中で、取組についての説明や様子などを話す機会を多くもちます。
- 取組の様子を校内に掲示し理解を広げます。



「交流籍」を活用した交流及び共同学習を行う際に大切にしなければならないことは、特別支援学校の保護者と小・中学校の保護者の気持ちです。どのような取組なのか、取り組むことでどのようなことが期待できるのか、きちんと説明しなければなりません。よく理解しない状態で進めても、特別支援学校の保護者も小・中学校の保護者も不安なままで、良い取組にはなりません。両校の保護者が安心して行えるように十分な情報を伝え、理解を得ながら進めて行くことが重要です。これまでの取組から、特別支援学校の保護者と小・中学校の保護者の感想を紹介します。この取組にとっても期待していることが分かります。

これまでの「交流籍」を活用した交流及び共同学習の取組から

特別支援学校の保護者の感想

〈小学部〉

- 交流籍校の児童とかかわりがもてたこと、温かく迎え入れられたこと、子どもの存在を知ってもらえたことに喜びを感じる。
- 迷惑をかけるのではないかと不安もあったが、笑顔で帰ってきた子どもを見て成長を感じるとともに、交流籍校の配慮に感謝している。
- 以前在籍していた学級の友だちとつながりをもち続けることがうれしい。今後も継続していくことで効果が期待できると思う。
- 交流籍の取組をきっかけに子ども会行事にも参加するようになり、地域でも気軽に声をかけてくれるようになった。
- 兄弟の行事で交流籍校に行った際、先生や児童から声をかけられ、本人だけでなく、親にとってもとてもうれしかった。

〈中学部〉

- 行事の見学だと一般のお客さんとして見られることが多かったが、普通の授業に参加できてうれしく思っている。
- 交流籍校の友達とかかわる本人の表情を見て、友だちとかかわる時間は大事だと思った。とてもありがたい機会だった。
- 小学部から交流していたので、中学部でも交流できて良かった。在籍校、交流籍校のそれぞれの良さを考える機会となった。

小・中学校の保護者の感想

- 交流学習のことは、家に帰ってきてよく話してくれる。時々会ったときなど言葉を交わしたり、ハイタッチしたりすることもある。
- とても交流を楽しみにしているようで何日も前から話をしている。来たらこんなことをするのだとうれしそうに話してくれる。
- 当日の様子を詳しく教えてくれる。「〇〇君の気持ち、みんな分かるんだよ。」と話している様子をうれしい気持ちで聞いている。



小・中学校の学習指導要領では、「障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設けること」と示され、特別支援学校の学習指導要領では、交流及び共同学習を計画的・組織的に行う内容が加えられました。

障がいのある児童生徒と小・中学校の児童生徒との交流及び共同学習の充実は、学校教育にとって不可欠なものなのです。

〈小学校学習指導要領〉

第1章 総則

第4 指導計画の作成に当たって配慮すべき事項

- 2 (12) 学校がその目的を達成するため、地域や学校の実態等に応じ、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深めること。また、小学校間、幼稚園や保育所、中学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習や高齢者などとの交流の機会を設けること。

〈中学校学習指導要領〉

第1章 総則

第4 指導計画の作成に当たって配慮すべき事項

- 2 (14) 学校がその目的を達成するため、地域や学校の実態等に応じ、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深めること。また、中学校間や小学校、高等学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習や高齢者などとの交流の機会を設けること。

〈特別支援学校小学部・中学部学習指導要領〉

第1章 総則

第2節 教育課程の編成

第4 指導計画作成に当たって配慮すべき事項

- 1 (6) 学校がその目的を達成するため、地域や学校の実態に応じ、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深めること。また、学校相互の連携や交流を図ることにも努めること。特に、児童または生徒の経験を広めて積極的な態度を養い、社会性や豊かな人間性をはぐくむために、学校の教育活動全体を通じて、小学校の児童又は中学校の生徒などと交流及び共同学習を計画的・組織的に行うとともに、地域の人々などと活動を共にする機会を積極的に設けること。

交流及び共同学習は、お互いのふれ合いを通して豊かな人間性を育むことを目的とする「交流」の部分と、教科や領域等のねらいの達成を目的とする「共同学習」との部分为一体で、この二つは分けられないものとして捉え、「交流及び共同学習」を推進していく必要があります。

第2章 「交流籍」を活用した交流及び共同学習

[展開のポイント]



1

学校体制はこれでOK！

ポイント1

校長の理解とリーダーシップが重要



交流及び共同学習を円滑に進め、「共に学び、共に育つ」環境づくりを推進していくには、校長の日常的なリーダーシップが必要です。交流及び共同学習を行うことで、児童生徒の主体的な行動と心の成長を期待することができます。また、小・中学校の先生方は、交流及び共同学習の取組から、特別に支援が必要な児童生徒への対応のヒントをもつことにつながり、学校経営にも生かすことができるのです

リーダーシップを発揮するために

〈両校共通〉

- 「交流籍」を活用する意義をしっかりと理解しましょう。(P.1)
- 「交流」から「交流及び共同学習」への変化について正しく理解しましょう。(P.2)
- 交流及び共同学習を率先して推進し、すべての先生方が共通理解を図る機会を設けましょう。
- 計画的、組織的に進めることができるよう適切な助言等を行い、保護者の願いや、先生方の思いに寄り添う姿勢を大切にしましょう。
- 保護者と地域への理解の啓発を推進しましょう。



〈小・中学校〉

- 交流及び共同学習の土台となる、年間を通した障がい理解教育の推進に努めましょう。(P.27)

校内推進の方法

〈両校共通〉

- ◇学校経営方針に明確に位置付けましょう。
- ◇教育課程の中に位置付け、計画的に実施するようにしましょう。(P.13)
- ◇校内に交流及び共同学習の取組を推進する組織を明確に位置付けましょう。(P.14)
- ◇交流及び共同学習の理解を深める研修の機会を設けましょう。

保護者・地域への啓発方法

〈両校共通〉

- ◇学校だよりやPTA会報等を活用して日常的に理解啓発を進めましょう。(P.15)

〈小・中学校〉

- ◇交流及び共同学習の様子や特別支援学校の児童生徒について良く把握しておき、学校や地域での会議や懇談会等でいつでも話せるようにしておきましょう。

ポイント2

教育課程に必ず位置付けましょう



交流及び共同学習は、学校の授業の中で計画的に行わなければならないものです。だからこそ教育課程にしっかりと位置付け、一人一人の目標やねらいを明確にして、交流及び共同学習の成果を適切に評価することが大切です。

教育課程に位置付けるために

〈両校共通〉

- どの教科、領域等に位置付けるか十分に検討しましょう。
- 年間指導計画の中に位置付け、計画的に進めましょう。
- 児童生徒の交流及び共同学習の目標やねらいと教科、領域等の目標やねらいを明確にしておきましょう。
- 目標やねらいに対する評価をしっかりと行いましょう。

〈小・中学校〉

- 障がいのある児童生徒と、その教育に対する正しい理解と認識を深めるための内容（障がい理解教育、特別支援学校についての学習等）を、位置付けましょう。（P.27）

〈特別支援学校〉

- 個別の指導計画と関連付け、適切な目標やねらいを設定しましょう。

両校の教育課程の位置付け例

【交流及び共同学習で調理をする場合】

〈小・中学校〉

- ◇教科・領域等
- ・家庭科



- ◇目標
- ・家庭科の単元の目標
- ・相互理解に関する目標

- ◇評価
- ・家庭科の単元目標に対する評価
- ・相互理解の評価

〈特別支援学校〉

- ◇教科・領域等
- ・自立活動



- ◇目標
- ・個別の指導計画による自立活動の目標
- ・交流及び共同学習の目標

- ◇評価
- ・個別の指導計画による自立活動の評価
- ・交流及び共同学習全体を通しての総合的評価

ポイント3

校内の推進組織を明確にしチームで進めましょう



小・中学校、特別支援学校とも、交流及び共同学習の具体的な取組や内容等を検討し、計画的・組織的に進めるためには、校内の推進組織に明確に位置付けることが重要です。また、小・中学校では、全職員が交流及び共同学習を理解し、情報を共有するためにも担当者一人に任せず、チームで進めて行きましょう。

推進組織に明確に位置付けるには

〈小・中学校〉

- 校内の特別支援教育に関する校内委員会の中に取組の一つとして加えると良いでしょう。
- 新たに立ち上げる場合は、特別支援教育・ユニバーサルデザイン等の推進も含めて組織化すると良いでしょう。
- 構成メンバーには、管理職、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級の先生、学年主任等が入ることが望ましいでしょう。ただし、学校の実情に合わせましょう。



〈特別支援学校〉

- 分掌内に担当を明確に位置付け、推進計画等を立て取組が円滑に進められるようにしましょう。

小・中学校の役割分担例

【校長】

- ◇取組の決定、助言
- ◇全児童生徒、先生、保護者、地域への理解啓発

【副校長、教務主任】

- ◇校内の協力体制等の調整、助言
- ◇実施学級の決定
- ◇取組の校内推進

【特別支援教育コーディネーター・特別支援学級担任】

- ◇交流及び共同学習を行う担任への連絡調整、授業のアドバイス
- ◇特別支援教育、交流及び共同学習に関する校内研修等の推進
- ◇校内推進計画の立案、提示

【学年主任等】

- ◇個人ファイル等の作成、管理
- ◇校内PTA、地区自治会、子ども会等との連絡調整
- ◇学校行事、PTA行事、地区行事等、特別支援学校へ情報提供

等

特別支援学校の役割分担例

【校長】

- ◇小・中学校への理解啓発
- ◇全児童生徒、先生、保護者、地域への理解啓発

【副校長】

- ◇「交流籍」決定後の窓口
- ◇全児童生徒、先生、保護者、地域への理解啓発

【分掌部長、学部長】

- ◇市町村教育委員会等への申請、報告等
- ◇提出書類等の管理
- ◇校内の協力体制等の調整、助言
- ◇小・中学校からの学校行事等の案内文書等の管理

【分掌部員】

- ◇取組の検討と計画の校内調整
- ◇校内推進計画の立案、提示
- ◇個人ファイル等の作成、管理
- ◇案内のあった小・中学校の学校行事、PTA行事、地区行事等を担任へ情報提供
- ◇地区自治会、子ども会等との連絡調整と参加の促し

等



【小・中学校の場合】

校長として

○学校行事や集会等の機会を活用して

- ・ 行事の挨拶で取組や障がい理解について紹介
- ・ 全校朝会等で取組の様子について紹介
- ・ 新入生説明会等で取組について紹介

○PTA活動の機会を活用して

- ・ PTA総会の挨拶で取組について紹介
- ・ PTA研修会等での講話
- ・ PTA会報で取組や様子について紹介
- ・ 地区懇談会や親子行事での紹介
- ・ 地区自治会、子ども会行事等への参加で理解促進

○その他

- ・ 学校評議委員会等で紹介
- ・ 学校だよりで取組や障がい理解について紹介

校内組織として

- ・ 学年集会等で紹介
- ・ 校内PTAとの連絡調整、案内
- ・ 地区自治会、子ども会との連絡調整、案内
- ・ 校内掲示を活用し特別支援学校の紹介
- ・ 学校、学年だより等で紹介

学級担任として

- ・ PTA活動の細かい連絡調整、案内
- ・ 地区自治会、子ども会行事の細かい連絡調整、案内
- ・ 学級通信で紹介
- ・ 校内掲示で取組の様子を紹介（児童生徒の感想文や写真）
- ・ 特別支援学校の学級だよりを教室内掲示で紹介

【特別支援学校の場合】

校長として

○学校行事や集会等の機会を活用して

- ・ 行事の挨拶で取組について紹介
- ・ 全校朝会等で取組の様子について紹介
- ・ 新入生説明会等で取組について紹介

○PTA活動の機会を活用して

- ・ PTA総会の挨拶で取組について紹介
- ・ PTA会報で取組や様子について紹介
- ・ 小・中学校の学年PTA行事等への参加で理解促進

○その他

- ・ 学校評議委員会等で紹介
- ・ 学校だよりで取組について紹介

分掌として

- ・ 学校行事等の案内
- ・ 学校だより等の送付
- ・ 小・中学校と連携し地区自治会、子ども会行事等への連絡調整

学級担任として

- ・ 小・中学校へ学級だよりの送付
- ・ 小・中学校へ交流及び共同学習の感想や写真の送付



2

さあ！ 交流及び共同学習をしましょう

ポイント4

必見！ 打合せが重要なカギ



小・中学校と特別支援学校の先生方は、はじめに「交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書」(P.19)を活用しながら本年度の全体実施計画について話し合い、確認することが大切です。次に、当日の活動内容や支援方法について詳しく、こまめに打ち合わせることが、交流及び共同学習を充実させる重要なカギとなります。全体実施計画及び当日の活動内容等の事前打合せを計画的、具体的に進めましょう。

また、全体実施計画の打合せの後は、交流及び共同学習のために先生が不在になる学級が重ならないかなど計画に見通しをもち、両校が負担にならず無理のない職員体制の下、交流及び共同学習を進めることができるようにしましょう。

打合せのモデルケース

全体実施計画の打合せ (交流籍校で直接会う)

〈「交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書」(P.19)を一緒に作成〉



小・中学校：「校内用実施計画案」作成 (P.20)，会議等で連絡
特別支援学校：実施日の報告，校内体制の調整



活動内容等の打合せ (直接会う，その後はFAX等でやりとり)

〈「授業用打合せシート」を活用 (P.21)〉



全体実施計画の打合せを進めるために

- 交流籍の指定が決まったら、特別支援学校からすぐに連絡し、打合せの日時を決めましょう。
- 6月中旬頃までには、直接会ってお互いの顔を見ながら全体実施計画の打合せをしましょう。
- 全体実施計画の打合せには、小・中学校の管理職の方にも参加してもらい、協力を得ましょう。
- 教科・領域等の年間計画と関係をもたせ計画を立てましょう。
- 児童生徒の様子や活動内容等、必要な情報が分かる資料等を準備しましょう。
- 「交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書」(P.19)を活用して確認しましょう。

全体実施計画の打合せに必要なもの

〈両校共通〉

- ◇「交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書」(P.19)
 - *特別支援学校は、事前に目的や保護者の要望など分かる部分を記入し、小・中学校に送付しておくことが望ましい。
- ◇年間行事予定表
- ◇児童生徒の様子が分かる資料（写真やDVD等）

〈小・中学校〉

- ◇前年度実施した場合は、その活動の様子
- ◇保育園や小学校で一緒だった児童生徒の情報

〈特別支援学校〉

- ◇児童生徒の実態、支援方法等が分かる資料

全体実施計画の打合せ内容例

〈「交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書」による確認事項〉

- 目的
- 実施回数、実施月
- 交通手段
- 内容
- 経費
- 留意事項
- 保護者の要望（備考欄）
- 緊急時の安全確認（備考欄）等

〈個別の指導計画等による確認事項〉

- 児童生徒の様子
- 支援方法 等

無理のない取組を計画するために

〈両校共通〉

- ◇1年間の見通しがもてるように年間の推進日程があると便利です。(P.22~P.25)
- ◇交流及び共同学習の担当になっている分掌等で職員体制等の調整をしましょう。
- ◇全校職員が共通理解をし、管理職が協力したり、学年を越えて協力したりしましょう。

〈小・中学校〉

- ◇打合せでの決定事項は、行事予定にしっかりと位置付けましょう。
- ◇担任は「校内用実施計画案」を作成し、先生方の共通理解を図り、活動に見通しをもちましょう。(P.20)
- ◇「校内用実施計画案」は、特別支援学校の先生にも渡しましょう。

〈特別支援学校〉

- ◇全体実施計画の打合せの後、担任は、交流及び共同学習の実施日をすぐに担当に連絡し、職員体制が取れるようにしましょう。
- ◇学部内での職員体制の調整が難しい場合は、学部を越えて協力しましょう。
- ◇児童生徒の学校の活動に支障が出る場合は、小・中学校に連絡をし、実施日を変更しましょう。
- ◇分掌等で職員の動向をあらかじめ把握し、職員が手薄になる場合は、あらかじめボランティアを要請しておくといいでしょう。
- ◇小・中学校からいただいた「校内実施計画案」等を基に、担任は学部用の実施計画を作成し、先生方の共通理解を図りましょう。

活動内容等の打合せを進めるために

- できる限り直接会って、お互いの顔を見ながら打合せをしましょう。
- 活動内容を検討するために必要な情報が分かる資料等を準備しましょう。
- 具体的な活動内容等が確認し合えるよう「授業用打合せシート」等を活用しましょう。(P.21)
- こまめに連絡を取り合きましょう。



活動内容等の打合せに必要なもの

〈両校共通〉

- ◇「授業用打合せシート」(P.21)

〈小・中学校〉

- ◇活動で使用する教材の見本や手順表

〈特別支援学校〉

- ◇活動内容に関する児童生徒の実態、支援方法等が分かる資料

活動内容等の打合せ内容例

〈「授業用打合せシート」による確認事項〉

- ねらい
- 学習活動について
- 児童生徒の活動及びかかわりについて
- 活動場面での配慮
- 教材・教具
- 事前・事後学習について
- その他の要望事項（保護者の要望等）
- 当日の持ち物 等

「交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書」 記入ポイント

「交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書」を基に本年度の取組の大まかな計画を両校で確認し、年間の見通しをもちましょう。小・中学校と特別支援学校の先生方が直接会い、目的や内容について確認し合ひましょう。

はじめの打合せの際、両校で確認し合う。

特別支援学校の先生は、目的や保護者の要望等を記入し、小・中学校に送付しておく。
(但しFAXを使用する場合は、個人が特定されないよう、1「児童生徒」の欄については記入しないこと。)

<様式6>

記入例

平成〇〇年度 交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書

1 児童生徒	氏名(ふりがな)	山 猫 太 郎 (やまねこ たろう)
	保護者氏名	山 猫 次 郎
	住所、連絡先等	花巻市銀河1-〇-〇×
2 在籍校	校名	岩手県立 ポラーノ 支
	学部・学年・学級、担任氏名	中学部・2年ヒバリ1組
	学校住所、連絡先等	花巻市太田7-〇-〇×
3 交流籍校	校名(担当者職・氏名)	花巻市立イーハートブ中
	交流学年・学級、担任氏名	2年 1組 学級
	交流籍校住所、連絡先等	花巻市北湯口2-〇-〇× 0198-20-XXXX
4 目的	児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ地域の同年齢の友達とのかかわり合いから、社会経験を広げて行く。 ・地域の友達とのつながりを保ち、地域行事等に積極的に参加できるようにする。
	交流籍校児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校及び特別支援学校の児童生徒への正しい理解と同じ地域の一員であることの理解を促す。 ・活動を通して相手の良さに気づき、お互いに助け合い、支え合うことの大切を学ぶ機会とする。
5 実施時期等	回数	3回
	月	<input checked="" type="checkbox"/> 8月, 11月, 月, <input checked="" type="checkbox"/> 10月23日~10月25日
6 交通手段		<input checked="" type="checkbox"/> 保護者の送迎 <input type="checkbox"/> その他
7 引率者		<input checked="" type="checkbox"/> 担任 <input type="checkbox"/> その他(職:)
8 内容*		<input checked="" type="checkbox"/> 行事の参加(文化祭
	* 詳細については、別に定める	<input checked="" type="checkbox"/> 教科・領域等の参加(体育、特別活動) <input checked="" type="checkbox"/> 間接的な交流及び共同学習(事前事後の手紙交換、文化祭作品展示) <input checked="" type="checkbox"/> その他(給食、昼休みでの交流)
9 経費		<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> 有、750円(但し、給食費として)負担者:保護者
10 保護者の要望		<input type="checkbox"/> 特になし <input checked="" type="checkbox"/> 有(3回の交流及び共同学習とも給食、昼休みまで参加希望。保護者の参観有り。)
11 留意事項		<input type="checkbox"/> 特になし <input checked="" type="checkbox"/> 有(てんかん発作があるため転倒時けが防止用の保護帽着用)
12 安全確認		非常時、災害時の避難経路確認(災害、地震の際はグラウンドに避難) 使用施設等の確認(教室、おむつ交換場所確認) その他、医療施設等の確認(主治医:中南病院 仙太先生 0197-〇〇-XXXX)
13 備考		<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容等の詳しい打合せは、7月夏休み中に行う。

目的には、相互の触れ合いを通じた育ち合いから達成できる内容と相互の理解を深める内容を記入する。

お互いの理解を深めるためにプロフィールカード等の交換があると効果的である。

11「留意事項」、12「安全確認」などは、しっかりと確認し、必要に応じて資料等を準備する。

備考の欄には、次回行う活動内容等の打合せの予定などを記入しておく

「校内用実施計画案」例



小・中学校の先生が「校内用実施計画案」を作成し、校内の会議等で提案することで、他の先生方への啓発の機会にもなり共通理解が図られます。また、作成後は、特別支援学校の先生にもFAX等を利用して送付しましょう。両校の先生方がしっかりと確認でき、計画が立てやすくなります。

平成〇〇年度 ポラーノ支援学校との交流及び共同学習実施計画案

〇学年 〇組 花巻 一郎

1 目的

- ・居住する地域を離れてポラーノ支援学校に通学している児童生徒と同じ活動に取り組むことで、地域に住む仲間だという意識をもち、お互いの良さに気付きながら相互理解を深める。

2 ポラーノ支援学校児童生徒名

中学部〇年 山猫 太郎 (やまねこ たろう)

3 ポラーノ支援学校引率者

担任 熊山 花子

4 来校手段

ポラーノ支援学校児童生徒保護者自家用車

5 交流及び共同学習日と内容

	日時	教科・領域	場所	内容	その他
1回目	7月23日(火) 5, 6校時	家庭	調理室	・カスタードプディングづくり ・会食	給食無
2回目	10月17日(木) 5校時	美術	教室	・山の幸染めコースターづくり	給食有
3回目	10月27日(日)	行事	各教室	・文化祭見学	お昼 注文有
4回目	12月20日(金) 5, 6校時	特別活動	教室	・クリスマス会 ・ゲーム, 会食	給食無

5 経費

交通費 なし 材料費 なし 給食費 ポラーノ支援学校児童保護者負担

6 その他

- ・昨年度から実施しており、交流及び共同学習は2年目である。
- ・特別支援学校の生徒が興味ある題材を取り扱いながら進める。
- ・2回目の活動では作品を制作し、本校文化祭に展示する。
- ・PTAの理解を得て、文化祭の日の昼食を注文する。
- ・安全管理や支援方法など詳細については、こまめに打合せを重ねる。

「授業用打合せシート」例&記入例

全体実施計画を立て、校内体制の調整が済んだ後は、【資料3】のような「授業用打合せシート」を活用し、活動内容等について具体的に確認し合いながら打合せを進めましょう。

【資料3】

記入例

年 月 日 () 記入

交流及び共同学習 授業用打合せシート

第 ___ 回 イーハトーブ 支援学校 との打合せ (担当 _____)

教科等及び単 元 名 生活単元学習 ホットケーキパーティをしよう

月 日 () 時間目 (: ~ :) 活動場所 調理室

ね ら い

小・中学校

- ホットケーキの作り方が分かり、楽しく会食する。
- 自分から進んで支援学校の友達とかかわり合いをもつ。

支援学校

- 卵を一人で割ることができる。
- 緊張せず、リラックスして友達と一緒に活動を楽しむ。

授業の概要

- グループに分かれてホットケーキを作る。
- みんなで感想を話しながら楽しく会食する。

学習活動	児童生徒の活動及びかかわり		活動場面での配慮		教材・教具
<ul style="list-style-type: none"> ホットケーキづくり 麦茶の準備 会食 	<p>〈小・中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ホットケーキの材料を支援学校の友達を誘って取りに行く。 自分たちだけで作ってしまわず、できるところを分担して行う。 	<p>〈支援学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 卵を一人で割る。 粉を友達と一緒に混ぜる。 麦茶の入ったコップを友達と協力して配る。 いただきますの号令をかける。 	<p>〈小・中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 卵を割る際、一人でできるまで見守る。 混ぜる際、ボウルが動かないように生徒が押さえる。 やけどに注意するよう声かけをする。 	<p>〈支援学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 混ぜる際に手を入れて、生地をなめることがあるのでグループの友達に知らせる。 焼いている途中で手を出して食べようとするので支援の先生がそばにいる。 	フライパン 泡立て器 ボウル 紙皿 ホットケーキミックス 卵 牛乳 麦茶 紙コップ お盆 おしぼり
事前・事後学習内容	事前・事後学習に必要な物や情報	その他の確認事項	当日の持ち物		
<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介カードの交換 ホットケーキの作り方 	<ul style="list-style-type: none"> 教室の様子が分かる写真 写真入り自己紹介カード 作り方の手順表 	<ul style="list-style-type: none"> 交流の日の前に母親と見学にきて良いか。 お昼休みまで居て交流して良いか。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角巾 上靴 ランチセット 		

教科・領域等にかかわる内容とお互いの理解が進むような具体的な目標を記入し両校で確認し合う。

両校が分かる部分は、あらかじめ記入しておく。

この部分は両校で直接会って確認しながら記入して行く。

特別支援学校の児童生徒が、行える活動や配慮すること等を確認し合いながら記入する。

事前・事後学習の進め方等について確認する。

保護者の要望や特に配慮する事項等を記入する。



年間の推進日程 1 交流籍校指定後の例

〈市町村教育委員会が、交流籍校指定を決定してから全体実施計画の打合せをした場合〉

小学校通常の学級と特別支援学校

4月	・特別支援学校は、保護者に希望確認
5月	・特別支援学校は、市町村教育委員会に申請 ・交流籍校指定決定〈特別支援学校長は、小学校へ挨拶の電話を入れる〉 ・特別支援学校から小学校に打合せの連絡
6月	◆ 全体実施計画の打合せ 〈 小学校で両校の先生方が直接会い、小学校の管理職を交えて打合せ 〉 ・「 交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書 」記入 (P.19) ・小学校は「校内用実施計画案」作成 (P.20), 活動内容等の詳細検討 ◆1回目の活動内容等の打合せ〈直接会う又は電話, FAX〉 ・「 授業用打合せシート 」活用 (P.21)
7月	◇1回目の交流及び共同学習実施 ・ 体育：プール, 1時間
8月	*地区子ども会夏休みのラジオ体操参加 (地域交流) ●1回目の活動内容等の評価〈直接会う又は電話, FAX〉 ・「 授業用評価シート 」活用 (P.35)
9月	◆2回目の活動内容等の打合せ〈直接会う又は電話, FAX〉 ・「 授業用打合せシート 」活用
10月	◇2回目の交流及び共同学習実施
11月	・ 生活：焼き芋会, 2時間 ●2回目の活動内容等の評価〈直接会う又は電話, FAX〉 ・「 授業用評価シート 」活用
12月	◆3回目の活動内容等の打合せ〈直接会う又は電話, FAX〉 ・「 授業用打合せシート 」活用
1月	◇3回目の交流及び共同学習実施 ・ 体育：そり滑り, 1時間 ●3回目の活動内容等の評価〈直接会う又は電話, FAX〉 ・「 授業用評価シート 」活用
2月	・1年間の反省 (両校それぞれで実施) ・特別支援学校は、次年度の希望を保護者に確認
3月	◆ 課題の修正と次年度の確認〈小学校で直接会って確認〉 ・「 授業用評価シート 」を基に「 交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書 」記入 (P.36)

*例であげた打合せ以外にも、両校でこまめに連絡を取り合い、分からないことは確認し合ひましょう。

年間の推進日程 2 交流籍校指定前の例

〈市町村教育委員会が、交流籍校指定をする前に全体実施計画の打合せをした場合（毎年継続して実施している場合等）〉

小学校通常の学級と特別支援学校

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校は、保護者に希望確認 ・特別支援学校は、市町村教育委員会に申請 ・特別支援学校から小学校に打合せの連絡
5月	<p>◆全体実施計画の打合せ</p> <p>〈小学校で両校の先生方が直接会い、小学校の管理職を交えて打合せ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書」記入 (P.19) ・交流籍校指定決定〈特別支援学校長は、小学校へ挨拶の電話を入れる〉 ・小学校は「校内用実施計画案」を作成 (P.20)、活動内容等の詳細検討 <p>◆1回目、2回目の活動内容等の打合せ〈直接会う又は電話、FAX〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業用打合せシート」活用 (P.21)
6月	<p>◇1回目の交流及び共同学習実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事：遠足 <p>●1回目の活動内容等の評価〈直接会う又は電話、FAX〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業用評価シート」活用 (P.35)
7月 8月	<p>◇2回目の交流及び共同学習実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年行事：PTA親子レク <p>●◆2回目の活動内容等の評価、3回目の活動内容等の打合せ〈直接会う又は電話、FAX〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業用評価シート」、「授業用打合せシート」活用
9月	<p>◇3回目の交流及び共同学習実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育：マラソン大会、1時間 <p>※地区行事秋祭り参加（地域交流）</p>
10月 11月	<p>●◆3回目の活動内容等の評価、4回目の活動内容等の打合せ〈直接会う又は電話、FAX〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業用評価シート」、「授業用打合せシート」活用
12月	<p>◇4回目の交流及び共同学習実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭：調理、2時間 <p>※地区区子ども会の冬のレクリエーション参加（地域交流）</p> <p>●4回目の活動内容等の評価〈直接会う又は電話、FAX〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業用評価シート」活用
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の反省（両校それぞれで実施）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校は、次年度の希望を保護者に確認
3月	<p>◆課題の修正と次年度の確認〈小学校で直接会って確認〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業用評価シート」を基に「交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書」記入 (P.36)

全体実施計画の打合せが早いと、実施のスタートを早く設定することができ、充実した交流及び共同学習を計画することができます。

*例であげた打合せ以外にも、両校でこまめに連絡を取り合い、分からないことは確認し合ひましょう。

年間の推進日程 3 交流籍校指定後の例

〈市町村教育委員会が、交流籍校指定を決定してから全体実施計画の打合せをした場合〉

中学校特別支援学級と特別支援学校

4月	・特別支援学校は、保護者に希望確認
5月	・特別支援学校は、市町村教育委員会に申請 ・交流籍校指定決定〈特別支援学校長は、中学校へ挨拶の電話を入れる〉 ・特別支援学校から中学校に打合せの連絡
6月	◆全体実施計画の打合せ 〈中学校で両校の先生方が直接会い、中学校の管理職を交えて打合せ〉 ・「交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書」記入 (P.19) ・中学校は「校内用実施計画案」作成 (P.20), 活動内容等の詳細検討 ◆1回目の活動内容等の打合せ〈直接会う又は電話, FAX〉 ・「授業用打合せシート」活用 (P.21)
7月	◇1回目の交流及び共同学習実施
8月	・家庭：調理, 2時間 ●1回目の活動内容等の評価〈直接会う又は電話, FAX〉 ・「授業用評価シート」活用 (P.35)
9月	◆2回目の活動内容等の打合せ〈直接会う又は電話, FAX〉 ・「授業用打合せシート」活用
10月	◇2回目の交流及び共同学習実施 ・生活単元学習：文化祭作品制作, 2時間 ・行事：文化祭作品見学
11月	●◆2回目の活動内容等の評価, 3回目の活動内容等の打合せ〈直接会う又は電話, FAX〉 ・「授業用評価シート」, 「授業用打合せシート」活用
12月	◇3回目の交流及び共同学習実施 ・生活単元学習：クリスマス会, 2時間
1月	・1年間の反省 (両校それぞれで実施)
2月	・特別支援学校は、次年度の希望を保護者に確認
3月	◆課題の修正と次年度の確認〈中学校で直接会って確認〉 ・「授業用評価シート」を基に「交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書」記入 (P.36)

*例であげた打合せ以外にも、両校でこまめに連絡を取り合い、分からないことは確認しましょう。

年間の推進日程 4 交流籍校指定前の例



〈市町村教育委員会が、交流籍校指定をする前に全体実施計画の打合せをした場合（毎年継続して実施している場合等）〉

中学校特別支援学級と特別支援学校

全体計画実施計画の打合せを早く設定すると、余裕をもって詳しい内容等を考えることができます。

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校は、保護者に希望確認 ・特別支援学校は、市町村教育委員会に申請 ・特別支援学校から中学校に打合せの連絡
5月	<p>◆全体実施計画の打合せ</p> <p>〈中学校で両校の先生方が直接会い、中学校の管理職を交えて打合せ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書」記入 (P.19) <li style="background-color: yellow;">・交流籍校指定決定〈特別支援学校長は、中学校へ挨拶の電話を入れる〉
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校は「校内用実施計画案」作成 (P.20)、活動内容等の詳細検討
7月	<p>◆1回目、2回目、3回目の活動内容等の打合せ、「授業用打合せシート」活用 (P.21)</p>
8月	<p>〈中学校で直接会いその後は、電話、FAX〉</p> <p>※地区PTA奉仕活動ボランティア清掃参加（地域交流）</p>
9月	<p>※地区行事秋祭り参加（地域交流）</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> ◇1回目交流及び共同学習実施 <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動：文化祭制作活動，1時間×2日間 ◇2回目交流及び共同学習実施 <ul style="list-style-type: none"> ・行事：文化祭見学 ●1回目、2回目の活動内容等の評価〈直接会う又は電話，FAX〉 <ul style="list-style-type: none"> ・「授業用評価シート」活用 (P.35)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ◇3回目の交流及び共同学習実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学年行事：PTA親子レク ●3回目の活動内容等の評価〈直接会う又は電話，FAX〉 <ul style="list-style-type: none"> ・「授業用評価シート」活用
12月	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の反省（両校それぞれ実施）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校は、次年度の希望を保護者に確認
3月	<p>◆課題の修正と次年度の確認〈中学校で直接会って確認〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業用評価シート」を基に「交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書」記入 (P.36)

*例であげた打合せ以外にも、両校でこまめに連絡を取り合い、分からないことは確認し合ひましょう。

ポイント5

児童生徒が意欲的になる事前学習



事前学習を行うことで、お互いについてよく理解し合い、活動に見通しをもつことができます。児童生徒が活動に見通しをもつことで期待感をもって取り組むことができ、主体的な行動が増え、意欲的な態度を育てることができます。

小・中学校は、障がい理解を深め、特別支援学校は、「いつ、どこで、誰と、何をするのか」を、分かりやすく伝え、安心して取り組めるようにすることが大切です。

事前学習を進めるための準備

〈両校共通〉

- 学校や学級、児童生徒の様子について目や耳で確認できる資料を交換しましょう。
- 年間行事予定表や学級通信等のやりとりをしましょう。
- 活動の目標やねらいについて具体的に考えましょう。

〈小・中学校〉

- 障がい理解の学習を計画的に進めておきましょう。(P.27)
 - 交流及び共同学習を行う児童生徒の障がいによる特性や配慮事項を確認しましょう。(P.29)
- *文部科学省ホームページ「交流及び共同学習ガイド」参照

事前学習の内容例

〈両校共通〉

- 交流及び共同学習を行う友達理解
- 当日のスケジュールの確認
- 当日の授業内容の確認
- 係分担
- 自己紹介カード作成
- 学校、クラス紹介 DVD 作成
- 事前学校訪問

〈小・中学校〉

- 障がい理解
- 活動内容を児童生徒で検討
- 支援方法を児童生徒で検討 等



おしえて! Q&A

Q 事前学習で、交流及び共同学習を行う児童生徒の障がいについて、どこまで教えた方が良いですか？

A 児童生徒の障がいを取り上げて学習するのではなく、得意なことや苦手なことは何か、どんな接し方をすれば良いか、どんなときにどんな配慮をしたら良いかなどを話すことが大切です。

また、障がいというよりは、個性や特徴という伝え方をし、交流及び共同学習を一緒に行う友達の理解を深めましょう。

小・中学校の先生方へ

事前学習を進める上で障がいの理解は欠かせません。事前学習を充実させ、中身の濃い交流及び共同学習にするためにも「障がい理解教育」を進めましょう。

「障がい理解教育」を進めるために

障がいを肯定的に捉え正しく理解しましょう。

障がいを理解する方法として、体験を通じた学習や絵本、児童文学等を使った学習があげられます。これらの学習を行うに当たって特に注意しなければいけないことは、障がいを肯定的に捉え、正しく理解することです。アイマスク体験や車いす体験等を行う場合は、「かわいそう・・・。大変だ!」とマイナスのイメージだけを児童生徒がもたないように、授業内容の工夫が必要です。「障がいがあってもこんなにできる!」と感じる授業にしましょう。

例

- アイマスクをし、鈴の入ったボールをキャッチする体験
- 耳栓をし、自己紹介を手話で行う体験
- 車いすに乗り、バスケットゴールにシュートする体験
- 絵本・児童文学、映画、漫画等の視覚教材の活用
- 障がいがありながらも活躍している方や専門家等のゲストによる授業や講演会 等



「障がい」だけに注目しすぎず、「本人自身」に注目しましょう。

障がいがあってもなくても、みんな得意、不得意があります。「それぞれの個性をどのようにしたら伸ばすことができるか、輝かせることができるか。」「学校生活の中でどのような経験ができ、どのような支援をしたら良いのか、どのように接することが良いのか。」を先生方がしっかり押さえ、「みんなちがってみんないい」ということを児童生徒と一緒に確認しましょう。



児童生徒が自分自身を見つめ直す機会にしましょう。

障がい理解教育を深めることは、児童生徒の主体性を導き出すことができ、自分理解につながります。自分自身を見つめ直す機会をもつことで心の成長にもつながります。児童生徒にとって障がい理解教育は、交流及び共同学習以外の活動場面でも必ず生きてくるものになります。

学年の理解度に合わせて計画を立て、学習を継続しながら理解を深めて行きましょう。

児童生徒の発達段階やそれぞれの理解度に合わせた内容を考え、年間指導計画を立てましょう。総合的な学習の時間や道徳等の時間を使い、計画的に継続して取り組み、時間をかけて障がいに対する正しい理解を進めて行きましょう。

○小学校の例

- 1・2年生 ・私の良いところ友達の良いところ
- 3・4年生 ・アイマスク体験、ゲスト授業
- 5・6年生 ・ユニバーサルデザインって何?
・私たちにできることを考えよう

○中学校の例

- 1年生 ・障がい問題を考えるDVDの視聴、感想文
- 2年生 ・車いすバスケット体験、ゲスト授業
- 3年生 ・障がい者の社会における位置付けの変遷

特別支援学校の先生方へ

児童生徒は楽しみな反面、慣れない場所、見知らぬ大勢の友達の中で学習することに、とても不安を感じていることでしょう。少しでも見通しがもてると、より安心して交流及び共同学習当日を迎えることができます。そして自分らしさも出しやすくなるのではないのでしょうか。

事前学習例 Part 1

- 小・中学校の校舎や教室の写真、交流及び共同学習を行う学級の友達の写真等を見せ、教室に掲示する。
- 交流及び共同学習当日の日程を、児童生徒に合わせた教材を使って伝える。
- 交流及び共同学習の前にプロフィールカードを交流籍校に届け、学校や学級を見学する。
- 「交流籍校」の学級に保育園や幼稚園、小学校で一緒だった友達がいる場合は、情報を伝える。
- 前の年の交流及び共同学習で一緒に活動した友達の写真等を使って、交流及び共同学習をすることを知らせる。

等

事前学習例 Part 2

- 使用する教材・教具を借り、学級でも練習する。
- 調理などは、作り方や材料などを教えてもらい、同じやり方で練習する。
- 教科書を使用する場合は、授業で行う部分を児童生徒が分かるよう工夫をし、予習する。
- 活動で使用する材料で、自分が準備できるものは準備する。
(例 「落ち葉を使ったコースター作り」「木の実を使ったクリスマスリースづくり」)
*学校の周りに散策に行き、好きな落ち葉や木の実を拾っておく

等



過度の刺激に要注意

児童生徒によっては、事前学習をすることで過度に興奮し、体調を崩す場合もあるので、児童生徒の実態に合った事前学習を展開しましょう。



障がいのある児童生徒への配慮事項



障がいのある児童生徒と交流及び共同学習を行う際には、障がいの特性に応じた配慮が必要です。文科省の交流及び共同学習ガイドより、障がい種の一部について記載します。

【視覚障害】

- ① 教材等を提示する場合、言葉での説明を添えるとともに、手で触って観察できるようにする。
- ② 「そこ」、「あそこ」などの指示代名詞は避け、「右手前」などと具体的に指示する。
- ③ 慣れない場所に行ったり、初めて体験したりする時には、最初に周囲の状況や活動内容を説明したり、一緒に歩きながら案内したりする。
- ④ 文字カード等を提示する際には、コントラストをはっきりさせ、文字を大きく書くとともに、照明等に配慮して見やすくする。
- ⑤ 視野が狭い場合には、横から近づいてくるものに気が付かなかったりすることがあるので、衝突による事故等が起こらないよう十分注意する。

【聴覚障害】

- ① 子どもが話し手の方を向いている時に、話し手は自分の顔全体、特に口元がはっきりと見えるようにして話しかける。
- ② 補聴器で聞き取りやすいように、必ず声を出して話す。唇だけを動かしたり、大声を張り上げたりしないようにする。
- ③ 話を通じにくい場合には、子どもの手のひらに指でゆっくりと文字を書いたり、空書きしたり、紙に書いたりして確認するようにする。子どもによっては、手指の形でかな文字を表す指文字や手話を活用した会話に努める。
- ④ 活動の流れを確認したり、話し手の方を見たりするために、子どもが横や後ろを見たりする場合があるので、それを認めるようにする。
- ⑤ できるだけ板書や実物、指文字を利用するなどして、視覚的な手がかりをもとに活動の流れを把握できるようにする。

【知的障害】

- ① 興味・関心をもつことのできる活動を工夫する。
- ② 言葉による提示だけでなく、絵や写真等を用いたりモデルを示したりすることによって、子どもたちが活動内容を理解しやすくする。
- ③ 繰り返してできる活動にしたり、活動の手順を少なくしたり、絵や写真等を用いて手順が分かりやすくなるようにしたりして、見通しをもちやすくする。
- ④ 得意とする活動や普段の授業で慣れている活動を行うようにして、活躍できる場を多くする。
- ⑤ 子どもの行動の意味や背景等を必要に応じて適切に説明するなどして、子ども同士が理解し合い友達になれるようにする。

【肢体不自由】

- ① 歩行を妨げたり、ぶつかったりしないように注意する。
- ② 車いすや杖等を使用する子どもが階段や段差のあるところで困っている場合には、どうしたら良いかを尋ね、それぞれの子どもたちに合った方法で援助する。また、必要に応じて周囲の人たちの協力を求め、安全な方法で介助するようにする。
- ③ 車いすを押す場合には、ゆっくり押すように心がける。また、前方に段差や坂道がないかをよく確かめ、急な下り坂では後ろ向きに進むなど、状況に応じた安全な押し方をする。
- ④ 話をする時は、それぞれの子どもの目の高さに合わせるように努め、気持ちを伝えるようにする。

* この他に病弱・身体虚弱、言語障害、情緒障害、学習障害等の配慮事項もありますので、下記を参考にしてください。

〈 Web ページ 交流及び共同学習ガイド 第1章 [よりよい交流及び共同学習を進めるために：文部科学省](#) 〉

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/010/001.htm 〉

ポイント6

児童生徒の良さがキラリ！と光る活動に



小・中学校と特別支援学校の児童生徒が輝き合い、興味をもって主体的に活動できる交流及び共同学習にしましょう。また、特別支援学校の児童生徒が、自ら取り組める場面やアピールできる場面を設定し、自信をもつようにしましょう。

主体的な活動にするために

○両校の児童生徒が楽しむことができ、進んで行える内容にしましょう。

- ・例としては・・・調理，音楽，運動など活動的なものがあげられます。

○特別支援学校の児童生徒が好きなことや得意なことを取り入れましょう。

○特別支援学校の児童生徒が見通しをもって主体的に活動できるよう、実態に応じた工夫をしましょう。

- ・目で見て分かるスケジュールボードや手順表等を準備する。
- ・終了が分かるようにキッチンタイマーを準備する。
- ・計量カップにテープで印を付けておく。 等



○活動ごとに身に付けてほしい力や相互理解が進むような具体的な目標やねらいを設定しましょう。

〈小・中学校の例〉

- ・友達と一緒に活動することができる。
- ・活動中に友達が困っている様子に気付くことができる。
- ・友達に慣れ自分から声を掛けることができる。
- ・友達を遊びに誘うことができる。
- ・友達の得意なところに気付き、それぞれの良さを感じることができる。
- ・自分で工夫してコミュニケーションを取ることができる。 等

〈特別支援学校の例〉

- ・緊張せずにリラックスして参加できる。
- ・自分から友達に声を掛けることができる。
- ・友達にすぐに慣れ、楽しんで参加することができる。
- ・分からないときは、自分から「教えてください」と聞くことができる。 等



○特別支援学校の児童生徒の実態によっては活動を絞って行うなど、余裕のある時間設定にしましょう。

○学級に知っている児童生徒がいる場合は、座席をとなりにしたり、ペアやグループに入れたりするなどの配慮をしましょう。



事後学習によって、お互いの理解や関心がより一層深まり、次回への期待感が膨らみます。また、児童生徒が自分自身を振り返り、自分を見つめ直す機会にもなります。先生方にとっても、授業の振り返りは大切です。児童生徒の育ち合いや理解の深まりについて確認することができ、次の活動に生かすことができます。さらには、学級経営や授業のヒントにもつながっていきます。

事後学習の進め方

〈両校共通〉

- 感想文や写真をまとめて廊下等に掲示し、取組を他の児童生徒にも広げましょう。
- 手紙やメッセージカードの作成を通して、次回への意欲付けをしましょう。

〈小・中学校〉

- 自己振り返りカード等を作成し、児童生徒自身や友達の良かった点などの振り返りをし、話し合う機会を設けましょう。

〈特別支援学校〉

- ビデオや写真等を有効的に活用し、活動を振り返りやすくしましょう。

*手紙等の交換をする場合は、全体実施計画の打合せで、話し合っておくとスムーズです。

事後学習の内容例

〈両校共通〉

- 感想発表
(感想文や写真をまとめる)
- 手紙, メッセージカードの作成
- ビデオレターの作成
- プレゼント作成



〈小・中学校〉

- 自己振り返りカード等の記入
- 意見交換会

〈特別支援学校〉

- 写真やビデオでの振り返り
- 学校訪問 等

先生方の取組として

〈両校の先生〉

- OPTA 会報や学年通信等に交流の様子を載せ、保護者の理解を広げましょう。
- 廊下の掲示などで取組の様子を全校に伝え、先生方も情報を共有しましょう。

〈小・中学校の先生〉

- 交流及び共同学習を通して児童生徒が得たものを学校生活でも生かせるようにしましょう。
(友達との関係づくりや主体的な行動等)
- 授業の工夫や支援方法など先生方が得たものを日々の学級経営に生かしましょう。



ポイント8

評価で取組が充実



交流及び共同学習にかかわる授業が終わるたびに、一つ一つ具体的に評価することが大切です。小・中学校と特別支援学校の先生方が、児童生徒の育ち合いなどについて活動ごとにメモを取り、(P.34)「授業用評価シート」(P.35)を活用して一緒に授業について評価し、改善策を考え、修正して行くことが、次の授業の充実につながります。

さらに、年度末にその評価を基にして「交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書」(P.36)の成果と課題について両校の先生方で検討し、情報を共有しておくことが大切です。

評価内容

- 児童生徒の評価
 - ・育ち合い、相互理解に関する評価
 - ・教科・領域等の目標に対する評価
- 授業の評価
- 学校の取組についての評価

必ず見直しをします

交流及び共同学習は、回数を重ねるうちに、緊張も少なくなり、見通しももちやすくなるため慣れてくると思います。しかし、児童生徒は日々成長し、実態も変わってきます。評価した後は、活動内容や支援方法の見直しを必ず行い、実態に合った活動にしていかなければなりません。

児童生徒の評価

次の観点から児童生徒の目標に応じて各活動場面で具体的に評価しましょう。

〈評価の観点〉

- 活動を通して、相互理解をどのように深められたか。
- 交流及び共同学習を通してどのような力が身に付いたか。

〈評価の方法〉

- ◇当日の活動の様子から評価する。(「活動振り返りメモ」の活用)(P.34)
- ◇相手校の先生の情報から評価する。
- ◇事後の感想文や手紙、自己振り返りカード等から評価する。
- ◇交流及び共同学習の事前学習から事後学習までの活動場面での変容を評価する。
- ◇学校生活の中での変容を捉える。
- ◇学校以外の地域生活などでのかかわりや姿を捉える。等

*評価した内容は、通知表や個別の指導計画に反映させましょう。また、評価した内容を基に「授業用評価シート」(P.35)を活用し、両校の先生方で授業の振り返りをしましょう。



授業の評価

【評価の観点】

- 活動した教科又は領域は、妥当であったか、どのような教科なら主体的に活動できたか。
- 支援方法では、どのようなところが良かったか、どのようなところがうまくいかなかったか。

等

【評価の項目例】

〈事前学習〉

- 回数は適切であったか
- 提案方法は適切であったか
- 内容は適切であったか
- 時間は適切であったか
- その他感じたこと

〈授業当日〉

- 本時の目標は達成されたか
- 本時の目標は適切であったか
- 活動の内容は適切であったか
- 教材教具の使い方はどうであったか
- 提示方法は適切であったか
- 児童生徒の反応を捉えることができたか
- 安全面での配慮は適切であったか
- 教師間の役割分担はどうであったか
- 自己アピール等ができる場面設定はどうであったか
- 時間配分は適切であったか
- その他感じたこと

〈事後学習〉

- 回数は適切であったか
- 提案方法は適切であったか
- 内容は適切であったか
- 時間は適切であったか
- その他感じたこと

【「交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書」】

(P.36)

- 成果
- 課題

等

学校の取組についての評価

【評価の観点】

〈管理職〉

- 組織的に円滑な対応ができたか。
- 円滑な対応ができなかった場合は、なぜできなかったのか。

〈先生方〉

- 交流及び共同学習を計画的に進めることができたか。
- 計画的に進めることができなかった場合は、なぜできなかったのか。

等

【評価の項目例】

〈両校共通〉

- 校内の推進組織の位置付け
- 取組の校内推進
- 保護者への啓発
- 地域への啓発
- 教職員の共通理解
- 相手校との打合せの時期
- 相手校との打合せの内容
- 実施計画の内容
- 学校間の共通理解
- 相手校への連絡
- 保護者との連絡

等





LOOK!

活動振り返りメモがあると便利です

目標やねらいについてどうであったか、活動中の児童生徒の様子から育ち合いが見られたか等をシートに書き留めておくことで、忘れることなく具体的に評価することができます。また、児童生徒の育ち合いや細かな変容を捉えることができます。

【資料4】

記入例

年度 交流及び共同学習 活動振り返りメモ

ポラーノ支援学校 山猫 太郎 さん との交流及び共同学習 年 組

ねらい	自分から進んでかかわり合いをもち、太郎さんが一人できるところは見守り、できないところはどの程度手伝えれば良いのか、どのような伝え方が良いのか自分なりに考え行動する。	
月日(曜日) 時間 教科・領域	学習活動	学習活動の様子(評価)
○月○日(○曜日) 5, 6時間目 家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・ゼリーづくり ・会食 ・突然!感想発表 ・見送り 	<ul style="list-style-type: none"> ・太郎さんがゼリーの生地を泡立て器で混ぜる活動を行っていた。車いすに座って膝の上でボウルをグラグラさせながら生地を混ぜていると、徳土さんがそっとボウルを押さえ混ぜやすくし、自分から気付いて行動する場面が多く見られた。 ・予定にはなかったが、生徒が感想発表をしたいと提案した。「みんなで一緒にゼリーが作れ、こんな機会があって本当に良かったし、楽しかった。ゼリーもおいしかったです。」と発表。楽しく、何かを感じ取れた交流及び共同学習であったことが伝わってきた。

気付きメモ <その他交流及び共同学習に関連して日常や地域での児童生徒の姿等特記事項>

- ・PTAレクに誘い、レクでは生徒も保護者も楽しそうに会話をしていた。
- ・早起きマラソンで一緒になった生徒が声をかけ一緒に走った。

担任名 _____

ねらいと関連する様子を記入

特別支援学校は、個別の指導計画の評価に生かします。

ねらいにはなくても取組を行う中で児童生徒の育ちが見られた場合も記入

学校生活や日常生活の場面での様子やかかわり、保護者からの情報等をできる限り見逃さず記入

「授業用評価シート」例&記入例

交流及び共同学習にかかわる授業が終了したら、「授業用評価シート」等を活用し、小・中学校と特別支援学校の先生方で一緒に授業を振り返り、次の交流及び共同学習へ生かすことが大切です。

【資料5】

記入例				
	年度	交流及び共同学習 授業用評価シート		
第 回	学校と	学校	との交流及び共同学習	担任名
				担任名
<p>〈評価〉 ○：大変良くてきた △：まあまあできた ×：できなかった</p>				
評価項目	小・中学校	支援学校	評価についての内容	改善できること
教師間で具体的な打合せができたか (係分担、児童生徒の実態把握、支援方法等)	○	△	<p>(小・中) 直接会って打合せができ、詳しい内容を話すことができた。</p> <p>(支 援) 「授業用打合せシート」で活動の詳しい内容が分かり、係分担しやすかった。本校の児童が自分で行えるところをきちんと伝えることができなかった。</p>	(支援) 次回の打合せでは、自分で行わせたい活動場면을きちんと伝える。
事前学習は、児童生徒が活動を楽しみにし、意欲的に取り組める内容であったか (児童生徒の姿、教師側の手立て等)	○	△	<p>(小・中) 通常の授業の際も、〇〇君の話題を意識的に話すことで活動に期待感をもつことができていた。</p> <p>(支 援) 十分ではなかったが、時間を見つけて話すとうれしそうにしていた。</p>	(支援) カレンダー等に友だちの写真等を貼り、意識がもてるようにする。
児童生徒が主体的に活動できる内容であったか (児童生徒の姿、教師側の手立て等)	○	○	<p>(小・中) 両校の児童生徒が好きな活動であったのでとても楽しんで行っていた。</p> <p>(支 援) どの児童生徒も一斉に一人でできる活動を取り入れ、本校の児童も一人でやることができた。活動が途切れないように、事前学習の写真を見せ、時間の工夫もされていた。</p>	
児童生徒同士のかかわりは、適切であったか (児童生徒の姿、教師側の手立て等)	△	○	<p>(小・中) グループごとに活動したのでかかわることができない児童生徒もいたが、感想発表では、皆一緒に学習できたことを喜んでいた。</p> <p>(支 援) 教室に入れずにいたところ、数名の児童が呼びに来て優しく声をかけてくれたので、本児も安心して中に入ることができた。</p>	(小・中) 3回の交流のうち必ず1回は、学級全体の友だちとかかわれる内容にする。
事後学習は、次回へつながる内容や期待感ももてる内容であったか (児童生徒の姿、教師側の手立て等)	○	○	<p>(小・中) 事後学習ではないが、プレゼントを帰りに渡した。とても喜んでいたので見て次回も活動できることを楽しみにしているようだ。</p> <p>(支 援) 振り返りの写真貼りやありがとうの手紙を書く際も楽しそうにしており、次回も行いたいという気持ちが伝わってきた。</p>	<p>改善策を考え、良かった点を生かしながら次回につなげることが重要です。</p>
<p>〈その他、活動の中で育ち合いについて感じたこと、特記すべきこと等〉</p> <p>(小・中) 2年目の交流で児童生徒の優しさも育ってきている。このまま取組を継続することで学年が上がっても心優しい児童生徒に育っていくことを期待している。</p> <p>(支 援) 保護者も一緒に参加したことで、地域の子もたちと保護者とのかかわりもでき良かったと感じた。</p> <p>* 活動の様子が分かる写真があれば添付する。</p>				

第2章 「交流籍」を活用した交流及び共同学習 [展開のポイント]

「交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書」 記入ポイント



交流及び共同学習が終了した際は、小・中学校と特別支援学校の先生方が直接会って成果と課題を共有し、「交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書」に記入しましょう。また、次年度の取組について確認し合ひましょう。

＜様式7＞		記入例	
平成〇〇年度 交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書			
1 児童生徒	氏名(ふりがな)	山 猫 太 郎 (やまねこ たろう)	
	保護者氏名	山 猫 次 郎	
	住所, 連絡先等	花巻市銀河1-〇-〇 〇198-2〇-XXXX	
2 在籍校	校名	岩手県立 ボラーノ 支援学校	
	学部・学年・学級, 担任氏名	中学部・2年ヒバリ1組 担任: 熊 山 花 子	
	学校住所, 連絡先等	花巻市太田7-〇-〇 〇198-2〇-XXXX	
3 交流籍校	校名(担当者職・氏名)	花巻市立イーハトーブ中学校(交流及び共同学習担当・姫神 町江)	
	交流学年・学級, 担任氏名	2年 1組 学級 担任: 花 巻 一 郎	
	交流籍校住所, 連絡先等	花巻市北湯口2-〇-〇 〇198-2〇-XXXX	
4 目的	児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ地域の同年齢の友達とのかかわり合いから、社会経験を広げて行く。 ・地域の友達とのつながりを保ち、地域行事等に積極的に参加できるようにする。 	
	交流籍校児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校及び特別支援学校の児童生徒への正しい理解と同じ地域の一員であることの理解を促す。 ・活動を通して相手の良さに気付き、お互いに助け合い、支え合うことの大切を学ぶ機会とする。 	
5 実施時期等	回数	3回	
	期日	8月27日(水), 10月23日(木)~10月25日(土), 11月13日(木),	
6 交通手段	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者の送迎 <input type="checkbox"/> その他()		
7 引率者	<input checked="" type="checkbox"/> 担任 <input type="checkbox"/> その他(職: 氏名:)		
8 内容	<input checked="" type="checkbox"/> 行事の参加(1回:文化祭)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 教科・領域等の参加(3回:体育, 特別活動)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 間接的な交流及び共同学習(2回事後の手紙交換, 文化祭作品展示)		
	<input checked="" type="checkbox"/> その他(3回:給食, 昼休みでの交流)		
9 経費	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> 有, 750円(但し, 給食費として) 負担者: 保護者		
10 保護者	来年度の実施希望	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
	要望, 感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も通常学級との交流及び共同学習を希望。 ・交流籍校の保護者からPTAレクに誘われ、継続して行ってきて良かったと感じた。 	
11 成果と課題	在籍校	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・行事, 教科など幅広く実施することができた。市内で会った交流及び共同学習を実施した学級の友達から校内マラソン大会に誘われるなど, これまでの交流及び共同学習の積み重ねの成果が感じられた。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・作品作りでは, 作業量が多く時間に追われるような形になってしまったので打合せの時点で実態を丁寧に説明し, 生徒同士がゆっくりとふれ合える時間や場の設定をすれば良かった。
	交流籍校	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が困っているときに助けたり, 応援したりするなど, 積極的にかかわろうとする姿が見られ, 相手を思いやる気持ちが育ってきている。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の打合せを密にすることで, より生徒の様子が分かりスムーズに活動ができると考える。
12 備考	・次年度の全体実施計画の打合せは, 今年度と同様6月に予定。		

実施報告書での確認を行う前に、保護者に次年度の希望や要望を確認し、両校が共有できるようにする。

次年度のスタートがスムーズに行くように、打合せの時期などを確認し記入する。

両校の成果と課題を確認し合い、改善策を考え次年度に生ず。



おしえて！ Q&A

Q いつも同じ教科での交流及び共同学習になってしまいます。別の教科で実施したいと思っているのですが、どんな内容が良いですか？

A まず押さえてほしいのは、交流及び共同学習を行う児童生徒が好きなことで興味がある教科でしたら無理に変える必要はありません。同じ教科で継続して行った方が分かりやすく主体的な行動が増える可能性があります。ただし活動内容は、その都度見直し、実態に合わせて分かりやすく楽しめる工夫をしてください。

また、もっと他にも得意なことや好きなことがあるのであればその活動が行える教科又は領域の授業を実施すると良いです。「何をしたら良いか分からない！」という場合は、特別支援学校の担任の先生に相談し、アイデアを出してもらいましょう。

児童生徒の実態にも関係しますが比較的動きのある活動が有効です。例えば、合奏、調理、マラソン、ダンス、水泳、そり滑り等があげられます。

また、休み時間や給食時間の交流も有効です。緊張も少なくゆったりとした気分でふれ合えるでしょう。



3

次年度に向けてさっそく準備しましょう

ポイント 10

次年度の希望を両校で確認しましょう



特別支援学校は、遅くとも3月上旬までに保護者に次年度の希望を取り、小・中学校と特別支援学校の先生方で確認しましょう。情報を共有することで次年度の計画が立てやすくなります。交流籍校の小・中学校では見通しがもて、年間指導計画作成の際にも生かされます。特別支援学校は、次年度の動き出しを早くすることができます。



次年度の希望を確認するために

〈両校共通〉

- 「交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書」を使って両校で希望の有無を確認しましょう。(P.36)
- 保護者の希望内容で分かる部分の情報があれば確認しましょう。

〈特別支援学校〉

- 分掌等の中に係を決め、2月中には希望を確認するなど日程を設定しましょう。

希望確認の内容例

〈特別支援学校〉

- 希望の有無
- 交流籍校名
- 希望回数
- 希望学級
- 希望時間
- 希望交流内容
- その他要望等 等

新入生の場合は

〈特別支援学校〉

新入生の場合は、入学してからの確認になりますので、入学説明会等で交流及び共同学習の取組について説明しておくとい良いでしょう。4月の懇談会等で希望の確認をしましょう。



毎年同じ先生が担任だとこれまで取り組んできた流れが分かりますが、実際は替わってしまうこともあります。せっかく充実した内容の交流及び共同学習が継続して行われてきても新しく担任になった先生に引き継ぎをしなければ、これまでの様子が全く分からない状態になってしまいます。担任の先生は、内容が分かる資料を準備し、できるだけ丁寧に詳しい情報を伝え、しっかりと引き継ぎをしましょう。

引き継ぎのために

〈校内の場合〉

- これまでの取組の状況や児童生徒の様子が分かる個人ファイル等を活用しましょう。
- 伝える内容を整理し、次に担任になる先生と顔を合わせながら引き継ぎをしましょう。

〈小学校から中学校の場合〉

- 3月に行う小学校から中学校への引き継ぎの際、「交流籍」を活用した交流及び共同学習を実施している児童についても引き継ぎをしましょう。
- これまでの様子が分かる資料やファイル等で引き継ぎをしましょう。



引き継ぎに必要な資料

〈両校共通〉

- 「交流籍を活用した交流及び共同学習実施計画書」のコピー (P.19)
- 「交流籍を活用した交流及び共同学習実施報告書」のコピー (P.36)
- 「授業用打合せシート」(P.21)
- 授業の様子が分かる写真
- 相手校の児童生徒の様子や仲の良い児童生徒等が分かる資料
- 「活動振り返りメモ」(P.34)
- 「授業用評価シート」(P.35) 等

〈小・中学校〉

- 特別支援学校の児童生徒の実態や配慮事項が分かる資料 等

*これらを分掌等で準備したファイルフォルダーに個人ごとに綴じ、整理しておきましょう。但し、個人情報等がありますので管理には十分に注意しましょう。

LOOK!

安全には十分注意しましょう



事故やトラブルでけがをした場合

特別支援学校の児童生徒がけがをした場合の応急処置は、小・中学校で行いますが、その後の対応は、特別支援学校で行います。ただし、小・中学校の児童生徒がトラブルでけがをした場合は、両校で協力して対応しましょう。

物を壊してしまった場合

特別支援学校の児童生徒が学校や友達の物を壊した場合は、特別支援学校の先生がまず謝罪し、対応を考えます。特別支援学校によっては、学校が窓口になって保険のとりまとめをしている場合や個人で任意保険に加入している場合もありますので、確認をして速やかに対応しましょう。

保険は担当の先生と保護者に確認

- 学校の教育活動中にけがをした場合
独立行政法人日本スポーツ振興センター災害給付金
- 物を破損した場合等
任意保険等
- 学校の管理下外でけがをした場合
PTA連合共済事業（ほとんどの学校で加入しています。）



* 保険に関しては、担当の職員に確認し、保護者と連絡を取りながら進めましょう。

第3章 「交流籍」を活用した交流及び共同学習

[実践編]



1 小学校と特別支援学校との交流及び共同学習



小学校通常の学級と特別支援学校小学部2年生，知的障がいのある児童の実践例を紹介します。

実践例 1

小学校

特別支援学校

教科・領域

◇体育「プールで水遊び」

◇自立活動

目標設定

〈教科・領域等の目標〉

- ◇水中での遊びを通して水に慣れ，水に浮いたりもぐったり，水中で息を吐いたりすることができる。
- ◇水中での運動に進んで取り組み，仲良く運動したり，安全に気を付けたりすることができる。

〈相互理解に関する目標〉

- ◇自分から進んで手をつないだり，じゃんけんをしたりし，楽しく活動することができる。
- ◇活動中に友だちが困っている様子に気付くことができる。

〈個別の指導計画からの目標〉

- ◇自分から友達に話しかけ，人とのかわり合いを楽しむことができる。
- ◇バランスを崩し転びそうになった際に手を床につけるようになる。

〈交流及び共同学習の目標〉

- ◇同年代の友達とかかわる経験をし，周りの人へ関心をもつ。
- ◇大きな集団でも自分の力を出して活動することができる。

事前学習

◇特別支援学校の友達の理解

- ・友達の通う特別支援学校は，どこにあってどんな学習をしているのかなど写真や絵本を使って学習。
- ・特別支援学校の児童の自己紹介カードを活用して理解を広げる。

◇クラス紹介カード作成

- ・一人一人の写真と好きなことなどを書く。

◇日程確認

◇自己紹介カード作成

◇学校訪問


- ・自己紹介カードと学級通信を持って小学校へ行き，交流及び共同学習を行う教室見学

◇水遊びの準備（事前の打ち合わせで確認）

- ・じゃんけん列車ゲームの練習
- ・水中宝探しの練習
- ・け伸びの練習

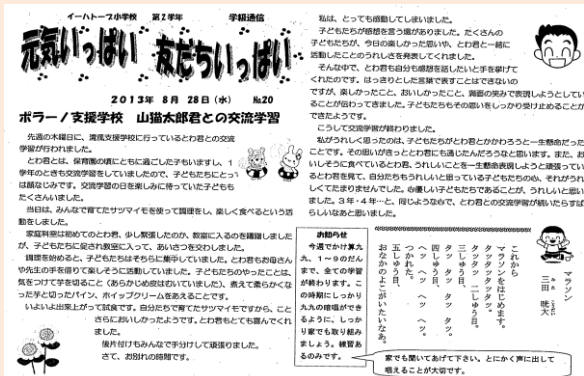
両校共通

授業実践

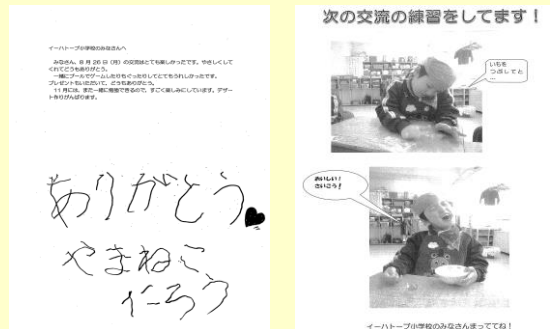
学習活動と内容	活動場面での支援及び配慮事項	教材・教具
<p>1 挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 始まりの挨拶 ・ 特別支援学校の児童挨拶 ・ 今日の学習内容の確認 <p>2 準備体操</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ラジオ体操 ・ 補充体操 <p>3 水遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プールサイドに座って水慣れ ・ みんなで手をつなぎ水中を歩く  <ul style="list-style-type: none"> ・ 2人組で宝探しゲーム ・ じゃんけん列車  <ul style="list-style-type: none"> ・ 手つなぎ鬼 ・ 水中リレー ・ け伸び ・ バタ足 <p>4 感想発表, 挨拶</p> <p>5 見送り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の流れは、あらかじめ「授業用打合せシート」で確認し合い、小学校の先生がT1となって進める。特別支援学校の先生は、T2として特別支援学校の児童を中心に支援する。 ・ 特別支援学校の児童は挨拶の練習をしておく。 ・ スケジュールボードを使って確認をする。 ・ T2は、できないところは、介助に入る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ プールサイドを走らないように声かけをする。 ・ 整列からバディを作り、必ず入水中、入水後友達がいるか確認する。 ・ T2は、特別支援学校の児童がバランスを崩しおぼれないか注意し、必要な場合はすぐに介助に入れる場所にいる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 宝探しでは、必ず2人で手をつないだ状態で水中からダイブボールを探すよう声かけをする。 ・ 先頭になった人は、後ろに付いている人のことも考えて進むよう声かけをする。 <div data-bbox="735 1480 1225 1655" style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #003366; color: white; text-align: center;"> <p>手をつないだり、肩につかまったりと児童同士がふれ合える工夫をしています。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手が離れたら自分たちで気付いてつなぎ直すように声かけをする。 ・ 一人でどれくらい行えるか見守り、できたときは大いに褒める。 ・ 一人ずつ発表することを伝えておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなが揃うまで玄関ホールで、学級で飼育しているカブトムシ等を見ながら交流。 	<p>スケジュールボード</p> <p>ダイブボール</p> <p>ダイブリング (リレーのバトン代わり)</p> <p>カブトムシ、クワガタ</p>

事後学習

- ◇活動を振り返り、感想文を書く。
- ◇学級通信に活動の様子を載せ、特別支援学校に送る。



- ◇記録写真を見ながら、楽しかったことなどを振り返る。
- ◇学級や学部の友達に発表する。
- ◇ありがとうの手紙を書き小学校まで届ける。



評価

〈児童の評価〉(「活動振り返りメモ」活用)

- ◇活動中の児童の表情や様子、発言等から
 - 水遊びのゲームの際、手が離れないように意識し、友達のペースに合わせている様子が見られた。
- ◇保護者との情報交換から
 - スーパーに買い物に行った際、特別支援学校の児童に自分から声をかけ積極的にかかわろうとする姿が見られた。
- ◇活動後の児童の発言や様子から
 - プールの授業の際、特別支援学校の友達とまた一緒に水遊びの授業がしたいと児童が話し、よりかかわり合いが深まってきた。

〈授業の評価・取組の評価〉

- ◇児童の評価から活動内容や支援内容について振り返る。
 - 手をつないだり、じゃんけんをしたりしてゲームを楽しみ、児童同士が多くかかわれる内容で良かった。
- ◇活動内容の打合せから事後学習までを振り返る。
 - 打合せを密にすることで、スムーズに交流及び共同学習を実施することができた。



〈児童の評価〉(「活動振り返りメモ」活用)

- ◇活動中の児童の表情や様子、発言等から
 - 自分から友達の側に行き、その友達に楽しそうに微笑む姿が見られ、本児の学校の児童以外へのかかわり合いが見られた。
- ◇先生同士の情報交換
 - け伸びの練習の際、周りの友達の動きをじっと見つめ自分も同じようにやってみようと挑戦する姿が見られた。

〈授業の評価・取組の評価〉

- ◇児童の評価から活動内容や支援内容について振り返る。
 - たくさんの友達を見てまねをするという、特別支援学校では経験できない貴重な体験ができた。
- ◇活動内容の打合せから事後学習までを振り返る。
 - 直接会って打合せをしたのでお互いに詳しい情報交換ができ、充実した交流及び共同学習を行うことができた。

実践例 2

教科・領域等	〈小学校〉 生活科	〈特別支援学校〉 特別活動
授業の概要	自分たちで育て、収穫したさつまいもを、特別支援学校の友だちと一緒に調理し、楽しく会食をする。	
学習活動と内容	<p>○紹介</p> <p>○身支度、手洗い</p> <p>○活動の説明</p> <p>○調理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さつまいもを小さく切る ・さつまいもを煮る ・収穫時の写真見学 ・全員ビニール袋にさつまいも、パイナップル、生クリームを入れ、ビニールの上から手でもみ混ぜる ・器に盛る <p>○会食</p> <p>○後片付け</p> <p>○感想発表</p> <p>○プレゼント</p> <p>○お別れ</p>	
学習活動の工夫	<p>〈時間の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりと活動できるようにあらかじめさつまいもの皮をむいておき、パイナップルも小さく切っておいた。 ・さつまいもを煮ている間、児童が時間をもてあまさないように教室の壁にさつまいもの収穫の際の写真を掲示し、みんなで見る時間を設定した。 	<p>〈活動の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人にビニール袋を配布し、自分で作れるようにした。 ・手でもむことで素材の感触を体験できるようにした。  <ul style="list-style-type: none"> ・次回の学習につながるように(また来てねという思いを込めて)プレゼントを準備した。

2 中学校と特別支援学校との交流及び共同学習



中学校特別支援学級と特別支援学校中学部2年生、肢体不自由の生徒の実践例を紹介します。

実践例 1

中学校

特別支援学校

教科・領域

◇生活単元学習「スイーツを作ろう」

◇自立活動

目標設定

〈教科・領域等の目標〉

- ◇スイーツづくりを通して作る楽しさを知り、さまざまなスイーツがあることが分かる。
- ◇興味をもって積極的に活動し、家庭でも作りたいと感じることができる。

〈相互理解に関する目標〉

- ◇自分から積極的にかわり、コミュニケーションが取れるようにする。
- ◇一人でできないところは手伝い、一緒に活動を楽しみながら行う。

〈個別の指導計画からの目標〉

- ◇学級以外の友だちにも緊張せずリラックスして活動に取り組めるようになる。
- ◇一人でできないときは、近くにいる人に自分から声を出して伝える。

〈交流及び共同学習の目標〉

- ◇同年代の友達とのかかわり合いを通して、興味や関心を広げる。
- ◇慣れない場所でも自分の力を出し、楽しく活動することができる。

事前学習

◇クラス紹介カード作成（ウエルカムカード）

- ・一人一人の写真と楽しみに待っている内容の文字を書く。

◇特別支援学校の友達の理解

- ・障がいについて考える学習。
- ・特別支援学校の生徒からの学校&友達紹介リーフレットで理解を広げる。

◇プディングづくりの練習（事前の打合せで係分担や作り方、材料等を確認）

- ・プディングづくり事前練習。
- ・係分担を確認し、自分たちが行えることを話し合う。

◇日程確認等

- ・中学校からのクラス紹介カード（ウエルカムカード）を活用しての学習

◇学校&友達紹介リーフレット作成（学級通信等を利用して良い）



- ・学校での学習の様子やクラスの友達についてパソコン等を使って作成する。

◇プディングづくりの練習（事前の打合せで係分担や作り方、材料等を確認）

- ・始めから終わりまで同じ手順で作る。
- ・一人で卵を割る練習。

両校共通

授業実践

学習活動と内容	活動場面での支援及び配慮事項	教材・教具
<p>1 挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 始まりの挨拶 ・ 自己紹介 <p>・ 今日の学習内容の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の流れは、あらかじめ「授業用打合せシート」で確認し合い、中学校の担任の先生がT1となって進める。特別支援学校の先生は、特別支援学校の生徒を中心に支援するが、他の生徒の支援もT2として行う。 ・ スケジュール表を使って確認をする。 	<p>スケジュール表</p> <p>ボール、型</p> <p>泡立て器</p> <p>蒸し器</p>
<p>2 カスタードプディングづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作り方の説明  <ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗い ・ 材料を量る ・ 材料を混ぜる 	<p>みんなて 協力して おいしい おやつを つくって 食べよう。</p> <p>① あいさつ ② 自己紹介 ③ プリンをつくる ④ 白玉団子づくり ⑤ みんなで食べる</p> <p>終わった活動に赤い線を引き、 今どの活動を行っているのかわかる、工夫をしています。</p> <p>視覚的に分かる工夫を多く行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の生徒と一緒に材料を量る。 ・ 卵は、特別支援学校の生徒が自分で割れるまで見守る。 ・ 材料を混ぜる際は、中学校の生徒がボールをおさえたり、交代して混ぜたりする。 	<p>〈材料〉</p> <p>砂糖、卵、牛乳</p> <p>バター</p> <p>バニラエッセンス</p> <p>砂糖、水</p>
<p>3 白玉団子づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 型に材料を入れる ・ 蒸し器で蒸す <p>4 会食</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆでる際、お湯が飛び跳ねる場合があるので、注意するよう声かけをする。 ・ いろいろな味が楽しめるよう、醤油、ごま、きなこ、あんこ、くるみのたれを準備する。 ・ 特別支援学校の生徒が、「いただきます。」の号令をかける。 ・ 楽しく会食できるようにT1の先生は感想等を聞きながら、会話が弾むような声かけをする。 	<p>白玉粉、豆腐</p> <p>4種類のたれ</p> <p>ボール</p> <p>キッチンペーパー</p> <p>鍋</p> <p>ふきん</p> <p>皿</p> <p>カップ</p> <p>お盆</p>
<p>5 見送り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで玄関に行き、見送りをする。 	

事後学習

- ◇自己振り返りカード記入。意見交換。
- ◇次回の予告をする。
- ◇楽しかった思い出を寄せ書きにして特別支援学校に届ける。

- ◇記録写真を用紙に貼り思い出アルバム作成。教室前の廊下に掲示。
- ◇学級や学部の友達に作品を見せ発表する。
- ◇ありがとうの手紙を書きポストに投函して送る。

評価

〈生徒の評価〉（「活動振り返りメモ」活用）

◇活動中の生徒の表情や様子，発言等から

○授業の展開の中では感想発表の時間は特に設けていなかったが，生徒の方から発表したいという申し出があった。一緒に調理したことが楽しく，できた料理も一緒に食べることで益々おいしかったと発表してくれた。

◇活動後の生徒の発言や様子から

○買い物に行った際に町で会って「元気？」と声をかけたと話してくれた。

〈授業の評価・取組の評価〉

◇生徒の評価から活動内容や支援内容について振り返る。

○事前に生徒の係分担をしていたので迷わず行動することができた。

◇活動内容の打合せから事後学習までを振り返る。

○活動の流れがはっきりと分かっていて，スムーズに交流及び共同学習を実施することができた。

〈生徒の評価〉（「活動振り返りメモ」活用）

◇活動中の児童の表情や様子，発言等から

○自分の大好きな食べ物だったので声を出して喜び，意欲的に活動することができた。

◇先生同士の情報交換

○活動中分からないことがあると自分から周りの友達や中学校の先生に教えてもらおうと主体的な姿が見られた。

〈授業の評価・取組の評価〉





◇生徒の評価から活動内容や支援内容について振り返る。

○自分から進んで活動し，楽しむことができたので，生徒に合った活動内容であった。

◇活動内容の打合せから事後学習までを振り返る。

○事前学習で共通の教材を準備し，同じ手順で調理の練習をしたことで，スムーズに学習に入ることができた。

実践例 2

教科・領域等	〈中学校〉 作業学習	〈特別支援学校〉 特別活動
授業の概要	身近にある木の葉を使って山の幸染めコースターを作る。葉の葉脈などにも注目させ、さまざまな模様を考え楽しみながら活動する。	
学習活動と内容	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 65%;"> <p>○紹介</p> <p>○活動の説明</p> <p>○木の葉の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに準備した木の葉を見せ合う。 <p>○山の幸染め手順確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の前で手順通りやってみせる。 ・手順を忘れても良いように写真で撮った手順表を準備しておく。 <p>○染色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェルトのコースターに葉を載せ、その上に染色紙、新聞紙の順に重ねて載せる。 ・上からアイロンをかける。タイマーで 25 秒、上から押しつける。 ・アイロンを外し紙類と木の葉を取る。 ・山の幸染めコースターのできあがり。(1枚の染色紙で趣の違う作品が3枚できる) <p>○製品発表と感想発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの製品を見せ合う。 <p>○見送り</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;">  </div> </div>	
学習活動の工夫	<p>〈時間の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動が始まってから材料等が足りなくなるなど慌てることがないように、新聞紙やフェルトなど使用する材料は、それぞれ使用する大きさに切り、多めに準備した。 ・25 秒間アイロンをかけることができるように、タイマーを準備した。 <div style="text-align: center;">  </div>	<p>〈活動の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に共通の教材となる葉を両校で集め押し花にし、授業の際に持ち寄って一緒にそれを使って作成した。当日だけでなく事前から同じ活動を行った。 <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・完成品は、色や形がはっきりと出て、始まりと終わりが分かりやすく目で見て楽しめる教材を選んだ。 <div style="text-align: center;">  </div>

「交流籍」を活用した交流及び共同学習の他にも「共に学び、共に育つ教育」を目指した交流及び共同学習があります。それぞれ活動の目的をはっきりとさせ、打合せを重ねることで計画的に進め、改善していくことで取組を充実させることができます。進め方については、交流及び共同学習ガイドブックを参考にすることができます。

各交流及び共同学習の紹介

● 学校内交流（小・中学校内における特別支援学級と通常学級との交流及び共同学習）

行事等への取組や教科等での交流及び共同学習があります。

● 学校間交流（特別支援学校と近隣の小・中学校との交流及び共同学習）

小・中学校に特別支援学校の児童生徒が行ったり、小・中学校の児童生徒が特別支援学校に行ったりしてゲームや調理活動などの交流及び共同学習を行っています。小・中学校によっては特別支援学校の児童生徒が行えるゲームを考えてくるなど工夫して実施しているところがあります。

● 居住地交流（居住地の住民との交流及び共同学習）

居住する地域の特別支援学校の児童生徒が集まり、地域の行事や施設等を利用して地域とのつながりを深める取組です。PTAが中心となって積極的に進められている例もあります。

● 地域交流（特別支援学校の近隣地域住民等との交流及び共同学習）

学校の近隣地域住民との理解を深める取組で、近隣の農家の方と協力して野菜販売をしたり、学校に招いてティーパーティをしたりして理解を深める取組を行っている例もあります。

● その他の交流及び共同学習

特別支援学校幼稚部・高等部の生徒と幼稚園・高校との交流及び共同学習 等



「交流籍」を活用した交流及び共同学習

[資料&関連事項]



「交流籍」を活用した 交流及び共同学習のご案内

岩手県では、特別支援学校の小・中学部で学んでいる子どもたちが、居住地の小・中学校の友達と一緒に学習したり、行事などに参加したりできる「交流籍」を活用した交流及び共同学習の取組を行っています。

お互いを理解し、尊重しながら育つことで、将来にわたって地域や仲間との温かなつながりを持ち続け、支え合い認め合って暮らすことができるようにという願いが込められています。



○ 「交流籍」とは？

特別支援学校の小・中学部に在籍する児童生徒は、交流及び共同学習を通じて地域とのかかわりを充実させるため、居住地の小・中学校に副次的な籍を置くことができます。この副次的な籍を「交流籍」と言います。（正規の学籍は特別支援学校にあります。）

○ 「交流籍」を活用した交流及び共同学習の内容

「交流籍」を活用した交流及び共同学習を希望されますと、地域の小学校または中学校を交流籍校として指定し、授業や行事等に参加できます。保護者の方の希望をお聞きし、小・中学校と特別支援学校の先生方が連絡を取り合い、調整しながら活動内容を決定していきます。例えば、さつまいもを収穫し、みんなで協力してスイーツを作って会食するなど、どの児童生徒でも楽しく参加できる内容を考えていきます。

この取組は、子どもたち同士のふれあいを通して、よりよい人間関係を育み、いろいろな経験を重ねることで社会性を養うことができます。また、地域での子どもたちの活動の場を広げて行くことを目的としています。

○ 対象となるお子様

岩手県内に居住する県立特別支援学校（小学部、中学部）で学ぶお子様

○ 「交流籍」の申し込み方法・申し込み期限

「交流籍」を活用した交流及び共同学習を希望する場合は、別紙の「交流籍校指定申込書」を在籍する特別支援学校に〇月下旬までに提出してください。

○ その他

詳しい内容やご不明な点、ご心配等がありましたら、在籍する特別支援学校の先生におたずねください。

【資料 2】

〈様式〇〉

交流籍校指定申込書

〇〇市教育委員会 あて

交流籍校の指定を希望しますので、本書をもって申し込みます。

在籍学校名	支援学校
ふりがな	
児童生徒氏名	
性別	
生年月日	
学年	小学部・中学部 学年
希望交流籍校	学校

* 希望交流籍校の欄には、居住地域の小・中学校をご記入ください。


平成 年 月 日

保護者住所 _____

保護者氏名 _____

【資料3】

年 月 日 () 記入

交流及び共同学習 授業用打合せシート 

第 ___ 回 との打合せ (担当 _____)

教科等及び
単 元 名

月 日 () 時間目 (: ~ :) 活動場所


ね ら い

授業の概要

-
-

学習活動	児童生徒の活動及びかかわり		活動場面での配慮		教材・教具
	<小・中学校>	<支援学校>	<小・中学校>	<支援学校>	
事前・事後学習の内容	事前・事後学習に必要な物や情報	保護者の要望, その他確認事項等	当日の持ち物		

【資料4】

年度	交流及び共同学習	活動振り返りメモ	
----	----------	----------	---

学校	さん	との交流及び共同学習	年	組
----	----	------------	---	---

ね ら い		
月 日 (曜日) 時間 教科・領域	学習活動	学習活動の様子 (評価)

気付きメモ <交流及び共同学習に関連して日常や地域での児童生徒の姿等特記事項>

担任名 _____

年度

交流及び共同学習 授業用評価シート



第 回

学校と

学校

との交流及び共同学習

担任名

担任名

〈評 価〉 ○：大変良くできた △：まあまあできた ×：できなかった

評価項目	小・中学校	支援学校	評価についての内容	改善できること
教師間で具体的な打合せができたか (係分担, 児童生徒の実態把握, 支援方法等)			(小・中) (支 援)	
事前学習は, 児童生徒が活動を楽しみにし, 意欲的に取り組める内容であったか (児童生徒の姿, 教師側の手立て等)			(小・中) (支 援)	
児童生徒が主体的に活動できる学習内容であったか (児童生徒の姿, 教師側の手立て等)			(小・中) (支 援)	
児童生徒同士のかかわりは, 適切であったか (児童生徒の姿, 教師側の手立て等)			(小・中) (支 援)	
事後学習は, 次回へつながる内容や期待感をもてる内容であったか (児童生徒の姿, 教師側の手立て等)			(小・中) (支 援)	
〈その他活動の中で育ち合いについて感じたこと, 特記すべきこと等〉				

引用文献

- 文部科学省（2008）小学校学習指導要領 p.17
文部科学省（2008）中学校学習指導要領 p.19
文部科学省（2009）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 p.46
文部科学省（2008）交流及び共同学習ガイド pp.4-6

参考文献等

交流及び共同学習の推進に関すること

- 文部科学省（2008）小学校学習指導要領
文部科学省（2008）中学校学習指導要領
文部科学省（2009）特別支援学校学習指導要領解説 総則編
岩手県教育委員会（2001）交流教育展開の手引
岩手県教育委員会学校教育室（2011）交流及び共同学習の充実に向けて
文部科学省初等中等教育特別支援課（2010）『季刊 特別支援教育 No,38』東洋館出版社
文部科学省初等中等教育特別支援課（2013）『季刊 特別支援教育 No,50』東洋館出版社
特別支援教育の実践研究会編（2013）『特別支援教育の実践情報 No, 151』明治図書
全日本特別支援教育研究連盟（2010）『特別支援研究 8月号 No, 636』東洋館出版社
全日本特別支援教育研究連盟（2013）『特別支援研究 6月号 No, 670』東洋館出版社
全日本特別支援教育研究連盟（2013）『特別支援研究 7月号 No, 671』東洋館出版社
福岡市発達教育センター（2011）「福岡市立の小・中学校，特別支援学校の交流及び共同学習の推進に関する調査研究（1年次）」
福岡市発達教育センター（2012）ふくせき制度にもとづく交流及び共同学習リーフレット
横浜市教育委員会（2007）副学籍による交流教育実施の手引
佐藤慎二著（2013）『特別支援学校 特別支援学級 担任ガイドブック』東洋館出版社

交流及び共同学習の事例に関すること

- 文部科学省（2008）交流及び共同学習ガイド http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/010/001.htm
千葉県総合教育センター（2009）交流及び共同学習実践ガイド http://db.ice.or.jp/nc/?page_id=49
大南英明編（2007）『特別支援教育の展開 交流及び共同学習への取り組み』明治図書
編集全国特別支援教育推進連盟（文部科学省委嘱）（2007）『よりよい理解のために 交流及び共同学習事例集』シアース

障がい理解教育に関すること

- 座間キャラバン隊（2009）『障害のある子って，どんな気持ち？見て，聞いて，体験して，知ろう！』ぶどう社
富永光昭編著（2011）『小学校・中学校・高等学校における新しい障がい理解教育の創造 交流及び共同学習・福祉教育との関連と5原則による授業づくり』福村出版
真城知己（2003）『「障害理解教育」の授業を考える』文理閣



交流及び共同学習ガイドブック